

令和3年度 第1回 南砺市立病院運営改革委員会

日 時：令和3年12月27日（月）19時～

場 所：地域包括ケアセンター 多目的研修室

あいさつ

1 協議事項

- ① 南砺市立病院運営改革委員会委員について（資料1）
- ② 南砺市病院事業会計決算の概要について（資料2）
- ③ 新南砺市立病院改革プラン（平成28年度～令和2年度）の実施状況について
（資料3-1）
（資料3-2）

2 報告事項

- ① 新南砺市立病院改革プラン(令和3年度～令和7年度)について（報告資料1）
- ② 南砺市立病院将来ビジョンについて（報告資料2）
- ③ 家庭・地域医療センター 児童精神科・心療内科「こどものえがおクリニック」
の受診状況について（報告資料3）

南砺市立病院運営改革委員会関係者名簿

委員 9 名

役職	氏 名	職 名
委員	中山 繁實	南砺市社会福祉協議会 会長
委員	松本 久介	南砺市地域づくり協議会連合会 会長
委員	長瀬 啓介	金沢大学附属病院 病院長補佐 南砺市政策参与
委員	山城 清二	富山大学附属病院 総合診療科 名誉教授 南砺市政策参与
委員	松倉 知晴	富山県砺波厚生センター所長
委員	松 智彦	南砺市医師会長
委員	田中 由利子	独立行政法人国立病院機構 北陸病院 看護部長
委員	村井 眞須美	公募委員
委員	鍛冶本 秀子	公募委員

市当局 16 名

	田中 幹夫	市 長
	齊藤 宗人	副市長
	清水 幸裕	南砺市民病院長
	三浦 利則	公立南砺中央病院長
	井口 一彦	地域包括医療ケア部長
	島崎 博美	地域包括医療ケア部 次長
	松田 哲也	地域包括医療ケア部 次長
	笠井 学	南砺市民病院 事務局長
	小又 一洋	公立南砺中央病院 事務局長
	藤井 博之	南砺市民病院 総務課長
	桜野 高弘	南砺市民病院 医事課長
	南部 英樹	公立南砺中央病院 総務課長
	長谷川 邦子	公立南砺中央病院 医事課長
	松岩 健志	地域包括医療ケア部 医療課長
	山田 浩司	地域包括医療ケア部 医療課主幹
	小原 彬	地域包括医療ケア部 医療課主任

病院事業全体

医業収益は前年度より276,242千円(5.1%)減の5,091,461千円、医業費用は前年度より46,197千円(0.8%)減の5,834,429千円、医業外収益は前年度より215,556千円(24.4%)増の1,099,150千円、医業外費用は1,608千円(0.5%)増の296,366千円となりました。
その結果、当年度純損益は55,418千円の純利益となり、3年連続しての黒字となりました。

単位:円

項目		病院事業計	南砺市民病院	公立南砺中央病院	病院統括事業
医業収益	①	5,091,461,434	3,039,935,695	2,051,525,739	
医業費用	②	5,834,429,224	3,475,013,630	2,330,218,451	29,197,143
医業損益	③(①-②)	▲ 742,967,790	▲ 435,077,935	▲ 278,692,712	▲ 29,197,143
医業外収益	④	1,099,150,442	533,393,145	535,186,659	30,570,638
医業外費用	⑤	296,365,890	140,027,147	151,794,331	4,544,412
経常損益	⑥(③+④-⑤)	59,816,762	▲ 41,711,937	104,699,616	▲ 3,170,917
特別損益	⑦	▲ 4,398,290	18,890	▲ 1,323,180	▲ 3,094,000
当年度純損益	⑧(⑦+⑧)	55,418,472	▲ 41,693,047	103,376,436	▲ 6,264,917
(参考)前年度純損益		40,465,900	6,552,629	36,621,714	▲ 2,708,443

南砺市民病院

本年度の延患者数は、新型コロナウイルスの影響により入院が50,663人、外来が85,269人で、前年度に比べ入院が4,594人(8.3%)、外来が6,120人(6.7%)それぞれ減少しました。また、一日平均患者数も、前年度に比べ入院が12.2人、外来が28.3人それぞれ減少しました。

入院患者数の減少により、病床利用率は86.3%から79.3%に減少しました。診療科別では、入院患者は内科、外来患者は内科・小児科で大きく減少しています。

収益的収支では、収入総額が3,646,482,710円で、前年度に比べ15,069,298円(0.4%)増となっています。内訳は医業収益が189,451,675円減、医業外収益が131,367,103円増、特別利益73,153,870円増となっています。医業収益減の主な要因として、新型コロナウイルスの影響により入院収益が7.3%減、外来収益が2.5%減となったことが挙げられます。収入に占める他会計補助金は406,610,000円で、前年度に比べ2,925,000円増、補助金のうち新型コロナウイルス対策に関連する額は121,796,000円となっています。また、特別利益増の要因は、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金(医療分)による新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金、年末年始の救急医療従事者等への慰労金に対する富山県からの補助金によるものです。

一方、支出総額は3,688,175,757円で、前年度に比べ63,314,974円(1.7%)増となっています。内訳は医業費用が2,486,518円減、医業外費用が7,333,488円減、特別損失が73,134,980円増となっています。医業費用減の主な要因として、材料費(薬品費)及び経費(委託料)の減が挙げられます。また、特別損失増の要因は、特別利益と同じく新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金、年末年始の救急医療従事者等への慰労金によるものです。

この結果、前年度と比較して医業収支は186,965,157円、病院事業収支も48,245,676円それぞれ減少し、純損益は41,693,047円の赤字となりました。

公立南砺中央病院

本年度の延患者数は、新型コロナウイルスの影響により入院が44,123人、外来が65,198人で、前年度に比べ入院が1,773人(3.9%)、外来が9,010人(12.1%)それぞれ減少しました。また、一日平均患者数は、前年度に比べ入院が4.5人、外来が40.9人それぞれ減少しました。

入院患者数の減少により、病床利用率は一般病床が84.6%から81.6%に、療養病床が83.0%から79.9%にそれぞれ減少しました。診療科別では、入院患者は内科、外来患者は小児科で大きく減少しています。

収益的収支では、収入総額が2,636,529,478円で、前年度に比べ43,202,235円(1.7%)増となっています。内訳は医業収益が86,789,957円減、医業外収益が80,175,112円増、特別利益49,817,080円増となっています。医業収益減の主な要因として、新型コロナウイルスの影響により入院収益が2.3%減、外来収益が8.1%減となったことが挙げられます。収入に占める他会計補助金は443,655,000円で、前年度に比べ1,534,000円減、補助金のうち新型コロナウイルス感染症対策に関連する額は86,038,000円となっています。また、特別利益増の要因は、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金(医療分)による新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金、年末年始の救急医療従事者等への慰労金に対する富山県からの補助金によるものです。

一方、支出総額は2,533,153,042円で、前年度に比べ23,552,487円(0.9%)減となっています。内訳は医業費用が47,760,084円減、医業外費用が8,515,440円増、特別損失が15,692,157円増となっています。医業費用減の主な要因として、給与費及び材料費(薬品費)の減が挙げられます。また、特別損失増の主な要因は、特別利益と同じく新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金、年末年始の救急医療従事者等への慰労金によるものです。

この結果、前年度と比較して医業収支は39,029,873円減少しましたが、病院事業収支は66,754,722円増加し、純損益は103,376,436円の黒字となりました。

(調査表1)

公立病院改革プランの実施状況

プランの名称		新南砺市立病院改革プラン									
策定日		平成29年3月23日									
病院の現状	病院名	南砺市民病院									
	所在地	南砺市井波938番地									
	病床数	許可病床 175床 (うち一般175床)									
		稼働病床 175床 (うち一般175床)									
	現在の経営形態	公営企業法財務適用									
	診療科目	内科、心療内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科(人工透析)、糖尿病・代謝・内分泌内科、血液内科、精神科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、肛門外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、病理診断科、リハビリテーション科、放射線科、歯科口腔外科									
地域医療構想を踏まえた役割の明確化	医療機能等指標に係る数値目標	1)医療機能・医療品質に係るもの	H27年度 (実績)	H28年度 (実績)	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度			備考
								(計画)	(実績)	(計画比)	
		救急患者数(人)	3,738	3,540	3,609	3,408	3,317	3,640	3,001	▲ 639	
		手術件数(件)	654	586	655	696	658	800	595	▲ 205	
		患者紹介(転入)延べ件数(件)	2,333	2,499	2,619	2,511	2,203	2,380	1,921	▲ 459	
		患者逆紹介(転出)延べ件数(件)	1,586	1,704	1,927	1,822	1,859	1,630	1,795	165	
		在宅復帰率(回復期病床・%)	97.6	99.4	95.8	94.9	93.9	97.0	94.6	▲ 2.4	
		在宅復帰率(地域包括ケア病床・%)	87.6	79.9	83.7	80.4	77.7	84.0	80.6	▲ 3.4	
		2)患者満足度(%)	H27年度 (実績)	H28年度 (実績)	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度			備考
								(計画)	(実績)	(計画比)	
経営の効率化	経営指標に係る数値目標	診療(検査・治療)内容	98.7	97.9	98.6	99.2	99.4	99.0	99.4	0.4	
		入院中の看護内容	99.0	98.8	98.9	99.4	99.2	99.0	99.4	0.4	
		受付窓口の接客態度	98.8	98.8	99.0	99.0	98.5	99.0	99.1	0.1	
		食事の内容	96.3	95.7	95.0	96.1	95.2	96.8	96.1	▲ 0.7	
		1)収支改善に係るもの	H27年度 (実績)	H28年度 (実績)	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度			備考
								(計画)	(実績)	(計画比)	
		経常収支比率(%)	96.4	98.2	101.5	101.5	100.2	100.1	98.9	▲ 1.2	
		医業収支比率(%)	89.1	90.6	94.0	93.2	92.9	93.1	87.5	▲ 5.6	
		不良債務比率(%)	▲ 33.1	▲ 34.8	▲ 36.8	▲ 40.6	▲ 43.9	▲ 43.7	▲ 47.6	▲ 3.9	
		累積欠損金比率(%)	53.2	55.3	51.1	47.3	49.6	54.5	54.1	▲ 0.4	
		2)経費削減に係るもの	H27年度 (実績)	H28年度 (実績)	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度			備考
								(計画)	(実績)	(計画比)	
		診療材料費の対医業収益比率(%)	14.2	13.8	14.3	14.3	13.1	14.2	13.2	▲ 1.0	
		委託費の対医業収益比率(%)	9.9	10.3	9.9	10.1	9.9	10.4	10.7	0.3	
		人件費の対医業収益比率(%)	73.0	71.5	67.9	68.2	70.4	69.9	75.2	5.3	
		減価償却費の対医業収益比率(%)	9.3	9.2	8.4	8.0	7.6	8.0	8.4	0.4	
		3)収入確保に係るもの	H27年度 (実績)	H28年度 (実績)	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度			備考
								(計画)	(実績)	(計画比)	
		1日当たり入院患者数(人)	134.3	140.3	149.7	150.9	151.0	138.3	138.8	0.5	
		1日当たり外来患者数(人)	410.1	407.2	407.3	383.8	379.2	413.0	350.9	▲ 62.1	
		病床利用率(%)	76.7	80.2	85.5	86.2	86.3	79.0	79.3	0.3	
		平均在院日数(日)	14.4	14.5	14.8	15.1	15.7	15.0	15.5	0.5	
		4)経営の安定性に係るもの	H27年度 (実績)	H28年度 (実績)	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度			備考
								(計画)	(実績)	(計画比)	
		常勤医師数(人)	21	21	23	25	25	24	26	2	H29:放射線科医 H30:整形外科医の2 名体制
		現金保有残高(百万円)	1,077	1,128	1,303	1,402	1,413	1,527	1,535	8	R元:循環器内科医
		企業債残高(百万円)	3,954	3,685	3,381	3,046	2,845	2,657	2,621	▲ 36	
		上記目標数値設定の考え方	地域住民の医療体制の確保及び医療の提供を図るとともに、当院の医療資源を有効に活用した経営の効率化と収支改善の観点により、上記数値目標を設定した。 新病院改革プラン対象期間であるH32年度までのうち、H30年度以降は経常黒字となることを目指し、上記数値目標を設定している。(H29年度に経常黒字を達成した)								

経営の効率化	数値目標達成に向けての具体的な取組計画及び実績	民間的経営手法の導入	計画 1)2年ごとに改訂される診療報酬にかかる情報の収集及び当院として増益となる部分の検証を進める。 2)職員個々に経営意識を持たせるための職員研修を実施する。 3)人事評価制度により、職員の目標設定の明確化と意識改革を図り、職員資質向上を図る。	実績 1)R2年度診療報酬改定により、情報収集及び当院として増益になる部分の検証を行い、順次届け出を行った。 2)R2年度診療報酬改定説明会を実施した。 3)人事評価を導入することにより、職員の資質向上を図った。
		事業規模・形態の見直し	計画 1)在宅復帰のため回復期医療を充実する。(医師、看護師、他の多職種による医療チーム活動の充実、土日でのリハビリの拡充等) 2)診療報酬の改定に伴い、7対1看護体制の継続可能等の見直しを検討する。 3)重症患者管理の向上のため、ハイケアユニット(HCU)病床の設置を検討する。	実績 1)患者総合支援センターが患者とその家族が入院から退院まで、そして退院後も、安心・安全に医療サービスが継続して受けられ、再び地域で生活していただけるよう、切れ目のない支援を行った。また、多職種による退院カンファレンスを週1回以上実施した。 2)7対1看護体制を継続した。 3)未実施
		経費削減・抑制対策	計画 1)2病院4診療所の統一可能な経費及び委託業務等で、スケールメリットを活かした経費削減策を検討する。 2)病院機能及び安全対策を確保しながら人員の適正配置を考慮し、人件費抑制を進める。 3)後発医薬品を積極的採用し、薬品費の削減に努める。 4)診療材料費のSPDと共同購入事業の参画により、より安価な商品の導入を進める。 5)事務部門等の集約化を図り、人件費・施設管理費などの抑制に努める。 6)施設や設備の整備については、将来的に診療科などの部門集約や共有化を図っていく方向にあることから、更新等に際しては必要最少限のものにとどめ、経費抑制に努める。	実績 1)施設設備修繕計画及び医療機器更新計画を策定した。 2)病院機能及び安全対策を確保しながら人員の適正配置に努めた。 3)後発医薬品を積極的採用し、薬品費の削減に努めた。(使用率H30年度92.3%→R元年度92.8%→R2年度92.9%) 4)新たなSPD事業者によるR2年度(2年目)は前年度より5,821千円 of 材料費増額となった。これは、コロナ禍対応の防護具等の購入による影響によるもの。 5)委託業務・賃貸借契約の一本化が可能な業務の検証と事務系業務一覧の作成等、事務部門の集約化を協議、今後も進めていく。 6)医療機器については、医療材料医療機器購入委員会で精査し、必要最小限の更新を行った。R2年度器械備品購入額136,681千円(電子カルテ
		収入増加・確保対策	計画 1)常勤医師増員に努め、病棟運営に必要な看護師の確保により患者受入体制を整え、稼働率を向上し収益の増を図る。 2)回復期リハビリ病床と地域包括ケア病床による回復期機能の強化により、入院収入の増を図る。 3)診療報酬の改定による加算点数の解析を行い、当院での現状と対策を検討する。 4)近隣病院と連携し、DPCデータの解析を行い、DPC機能評価係数の解析を進め、当院のベンチマークを確認し、収支改善を図る。	実績 1)病床利用率は79.3%で計画に比べ0.3%の増となった。 2)病床利用率は回復期リハビリ病床で81.4%(R元年度88.1%)、地域包括ケア病床で75.8%(R元年度84.4%)となった。 3)R2年度診療報酬の改定による、加算点数の解析を各部署単位で行った。 4)近隣病院と連携し、H27年度のDPCデータの解析を行った。DPC機能評価係数の解析を進め、当院のベンチマークを確認した。月1回経営会議で現状分析を行い、課題と対策を協議した。
		その他	計画 1)初期研修医の基幹病院として、人材の育成・教育の他、専門医の育成、学生の受け入れを進め、研修医等にも選ばれる病院を目指す。 2)病院機能評価を受審し、当院の病院機能の堅持・向上を行い、患者に信頼される病院を目指す。	実績 1)初期研修医4名を受け入れた。 2)H28年度に病院機能評価を受審し、組織全体の運営管理及び提供される医療について認定を受けた。

各項目における実績の分析と自己評価	地域医療構想を踏まえた役割の明確化	・救急患者数は、人口減及び新型コロナウイルス感染症等により計画より639人減となった。 ・手術件数は、泌尿器科が2件、眼科が13件増加したが、その他の科が大幅減となり、全体では63件減となった。特に外科は44件減となった。 ・患者紹介（転入）は計画に比べ459件の減となった。また、患者逆紹介（転出）は計画に比べ165件の増となった。病院、診療所との紹介・逆紹介が要因であった。これからも地域医療を支える病院として医療機関等との連携の強化を進めていきたい。 ・回復期病床の在宅復帰率及び地域包括ケア病床の在宅復帰率は、医療スタッフは努力したものの計画値に届かなかった。 ・患者満足度については、医療スタッフの努力により、計画値を上回った。 ※以上のことから、コロナ禍の影響により入院、外来は減少したが、患者満足度や在宅復帰率等は概ね計画に挙げた目標数値となっている。
	経営の効率化	・R2年度の延患者数は、新型コロナウイルスの影響により入院が50,663人、外来が85,269人で、前年度に比べ入院が4,594人(8.3%)、外来が6,120人(6.7%)それぞれ減少しました。また、一日平均患者数も、前年度に比べ入院が12.2人、外来が28.3人それぞれ減少した。 ・入院患者数の減少により、病床利用率は86.3%から79.3%に減少した。診療科別では、入院患者は内科、外来患者は内科・小児科で大きく減少した。 ・地域のニーズに合った医療機能の強化や収益の確保に努めるとともに施設の維持管理を行いながら、経費の削減に引き続き取り組み、健全経営に向けた一層の努力を重ねていきたい。 ※以上のことから、R2年度の経常損益は赤字となった。
	その他	・南砺市立病院運営改革委員会を設置、令和2年10月29日、令和3年3月18日に開催した。また、会議の資料及び議事録を南砺市のホームページに掲載した。

1. 収支計画 (収益的収支)

(単位: 百万円、%)

区 分		年 度					R2年度		
		H27年度 (実績)	H28年度 (実績)	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	(計画)	(実績)	(計画比)
収 入	1. 医 業 収 益 a	2,992	2,990	3,152	3,288	3,229	3,269	3,040	▲ 229
	(1) 料 金 収 入	2,812	2,801	2,958	3,102	3,055	3,090	2,877	▲ 213
	(2) そ の 他	180	189	194	186	174	179	163	▲ 16
	うち他会計負担金	38	38	38	38	40	38	40	2
	2. 医 業 外 収 益	379	377	382	422	402	383	534	151
	(1) 他会計負担金・補助金	328	330	338	377	364	330	367	37
	(2) 国 (県) 補 助 金	13	12	11	14	13	11	134	123
	(3) 長 期 前 受 金 戻 入	23	21	19	20	15	18	21	3
	(4) そ の 他	15	14	14	11	10	24	12	▲ 12
	経 常 収 益 (A)	3,371	3,367	3,534	3,710	3,631	3,652	3,574	▲ 78
支 出	1. 医 業 費 用 b	3,359	3,299	3,353	3,527	3,477	3,511	3,475	▲ 36
	(1) 職 員 給 与 費 c	2,183	2,138	2,139	2,244	2,274	2,285	2,286	1
	(2) 材 料 費	426	412	450	470	423	465	401	▲ 64
	(3) 経 費	455	456	479	530	508	480	512	32
	(4) 減 価 償 却 費	277	276	266	264	247	260	256	▲ 4
	(5) そ の 他	18	17	19	19	25	21	20	▲ 1
	2. 医 業 外 費 用	137	129	130	129	147	138	140	2
	(1) 支 払 利 息	61	57	53	48	44	45	39	▲ 6
	(2) そ の 他	76	72	77	81	103	93	101	8
	経 常 費 用 (B)	3,496	3,428	3,483	3,656	3,624	3,649	3,615	▲ 34
経 常 損 益 (A)－(B) (C)		▲ 125	▲ 61	51	54	7	3	▲ 41	▲ 44
特 別 損 益	1. 特 別 利 益 (D)							73	73
	2. 特 別 損 失 (E)			7				73	73
	特 別 損 益 (D)－(E) (F)	0	0	▲ 7	0	0	0	0	0
純 損 益 (C)＋(F)		▲ 125	▲ 61	44	54	7	3	▲ 41	▲ 44
累 積 欠 損 金 (G)		1,593	1,654	1,610	1,556	1,603	1,782	1,644	▲ 138
不 良 債 務	流 動 資 産 (ア)	1,569	1,659	1,803	1,981	2,039	2,016	2,124	108
	流 動 負 債 (イ)	579	617	643	646	620	587	677	90
	うち一時借入金								0
	翌年度繰越財源(ウ)								0
	当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 (エ)								0
差引 不 良 債 務 (オ) [(イ)－(エ)]－[(ア)－(ウ)]		▲ 990	▲ 1,042	▲ 1,160	▲ 1,335	▲ 1,419	▲ 1,429	▲ 1,447	▲ 18
経 常 収 支 比 率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$		96.4	98.2	101.5	101.5	100.2	100.1	98.9	▲ 1.2
不 良 債 務 比 率 $\frac{(オ)}{a} \times 100$		▲ 33.1	▲ 34.8	▲ 36.8	▲ 40.6	▲ 43.9	▲ 43.7	▲ 47.6	▲ 3.9
医 業 収 支 比 率 $\frac{a}{b} \times 100$		89.1	90.6	94.0	93.2	92.9	93.1	87.5	▲ 5.6
職 員 給 与 費 対 医 業 収 益 比 率 $\frac{c}{a} \times 100$		73.0	71.5	67.9	68.2	70.4	69.9	75.2	5.3
地方財政法施行令第15条第1項 により算定した資金の不足額 (H)		▲ 990	▲ 1,042	▲ 1,160	▲ 1,335	▲ 1,419	▲ 1,429	▲ 1,447	▲ 18
資 金 不 足 比 率 $\frac{(H)}{a} \times 100$		▲ 33.1	▲ 34.8	▲ 36.8	▲ 40.6	▲ 43.9	▲ 43.7	▲ 47.6	▲ 3.9
病 床 利 用 率 (一般病床)		76.7	80.2	85.5	86.2	86.3	79.0	79.3	0.3

2. 収支計画(資本的収支)

(単位:百万円、%)

年度 区 分		H27年度 (実績)	H28年度 (実績)	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度		
							(計画)	(実績)	(計画比)
収 入	1. 企 業 債	92	44	43	43	139	45	103	58
	2. 他 会 計 出 資 金	193	200	205	220	192	188	182	▲ 6
	3. 他 会 計 負 担 金								
	4. 他 会 計 借 入 金								
	5. 他 会 計 補 助 金								
	6. 国 (県) 補 助 金	4	5	3	0	58	3	19	16
	7. そ の 他								
	収 入 計 (a)	289	249	251	263	389	236	304	68
	うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額 (b)								
	前年度許可債で当年度借入分 (c)								
支 出	純計(a)－[(b)+(c)] (A)	289	249	251	263	389	236	304	68
	1. 建 設 改 良 費	99	52	52	51	243	50	137	87
	2. 企 業 債 償 還 金	300	313	347	377	339	323	327	4
	3. 他会計長期借入金返還金								
	4. そ の 他								
差 引	支 出 計 (B)	399	365	399	428	582	373	464	91
	差 引 不 足 額 (B)－(A) (C)	110	116	148	165	193	137	160	23
	1. 損 益 勘 定 留 保 資 金	110	116	148	165	193	137	160	23
	2. 利 益 剰 余 金 処 分 額								
	3. 繰 越 工 事 資 金								
補 て ん 財 源	4. そ の 他								
	計 (D)	110	116	148	165	193	137	160	23
補てん財源不足額 (C)－(D) (E)		0	0	0	0	0	0	0	0
当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 (F)									
実 質 財 源 不 足 額 (E)－(F)		0	0	0	0	0	0	0	0

3. 一般会計等からの繰入金の見通し

	H27年度 (実績)	H28年度 (実績)	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度		
						(計画)	(実績)	(計画比)
収 益 的 収 支	(164) 366	(171) 368	(153) 376	(184) 415	(168) 404	(132) 368	(142) 407	(10) 39
資 本 的 収 支	193	200	205	220	192	188	182	▲ 6
合 計	(164) 559	(171) 568	(153) 581	(184) 635	(168) 596	(132) 556	(142) 589	(10) 33

(注)

1 ()内はうち基準外繰入金額

2 「基準外繰入金」とは、「地方公営企業繰出金について」(総務副大臣通知)に基づき他会計から公営企業会計へ繰り入れられる繰入金以外の繰入金をいう

資料 3 - 2

(調査表1)

公立病院改革プランの実施状況

プランの名称		新南砺市立病院改革プラン											
策定日		平成29年3月23日											
病院の現状	病院名	公立南砺中央病院											
	所在地	南砺市梅野2007番地5											
	病床数	許可病床	149床	(うち一般104床、療養45床) 平成30年3月20日 3階病棟41床廃止									
		稼働病床	149床	(うち一般104床、療養45床)									
	現在の経営形態	公営企業法財務適用											
診療科目	内科、心療内科・精神科、呼吸器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、消化器科、リハビリテーション科、放射線科												
地域医療構想を踏まえた役割の明確化	医療機能等指標に係る数値目標	1)医療機能・医療品質に係るもの	H27年度 (実績)	H28年度 (実績)	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度			備考		
								(計画)	(実績)	(計画比)			
		救急患者数(人)	1,543	1,329	1,424	1,366	1,481	1,920	1,160	▲ 760			
		手術件数(件)	405	450	447	547	430	520	367	▲ 153			
		患者紹介(転入)件数(人)	1,685	1,667	1,557	1,484	1,370	1,953	1,213	▲ 740			
		患者逆紹介(転出)件数(人)	1,000	1,078	988	1,148	1,144	1,159	1,129	▲ 30			
		在宅復帰率(地域包括ケア病床・%)		90.3	86.7	88.9	90.3	86.0	91.2	5.2			
		2)患者満足度(%)	H27年度 (実績)	H28年度 (実績)	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度			備考		
								(計画)	(実績)	(計画比)			
		診療(検査・治療)内容について	98.1	98.4	97.6	97.9	98.2	98.6	96.7	▲ 1.9			
		入院中の看護内容について	98.1	98.8	98.5	98.4	97.8	98.6	98.1	▲ 0.5			
		受付窓口の接客態度について	98.2	98.2	97.8	98.2	98.7	98.7	97.7	▲ 1.0			
		食事の内容について	94.1	96.5	95.2	92.0	93.0	94.6	92.2	▲ 2.4			
		経営指標に係る数値目標	経営指標に係る数値目標	1)収支改善に係るもの	H27年度 (実績)	H28年度 (実績)	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度			備考
										(計画)	(実績)	(計画比)	
				経常収支比率(%)	91.9	97.9	98.8	102.5	102.9	100.2	104.2	4.0	
				医業収支比率(%)	78.6	84.3	85.0	88.6	89.9	92.5	88.0	▲ 4.4	
				不良債務比率(%)	3.5	▲ 4.7	▲ 9.3	▲ 16.0	▲ 18.0	7.3	▲ 20.0	▲ 27.3	
				累積欠損金比率(%)	202.9	194.0	187.6	172.8	177.1	197.6	179.6	▲ 18.0	
2)経費削減に係るもの	H27年度 (実績)			H28年度 (実績)	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度			備考		
								(計画)	(実績)	(計画比)			
材料費の対医業収益比率(%)	15.5			14.8	14.5	14.7	14.4	14.2	14.2	0.0			
委託費の対医業収益比率(%)	15.0			13.8	13.0	12.5	13.4	12.4	14.1	1.7			
職員給与費の対医業収益比率(%)	72.3			67.4	66	63.1	67.9	67.4	69.0	1.6			
減価償却費の対医業収益比率(%)	17.0			15.8	15.9	15.0	7.5	6.5	7.8	1.3			
3)収入確保に係るもの	H27年度 (実績)			H28年度 (実績)	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度			備考		
								(計画)	(実績)	(計画比)			
1日当たり入院患者数(人)	107.8			113.8	121.3	123.6	125.4	81.1	120.9	39.8	※H30から4・5Fのみ		
1日当たり老健入所者数(人)								41.4		▲ 41.4	※H30から6階転換(当初)		
1日当たり外来患者数(人)	289.3			286.1	287.4	300.8	309.2	295.0	268.3	▲ 26.7			
一般病床利用率(%)	47.0 (68.9)			53.5 (74.5)	57.8 (80.6)	83.6	84.6	79.0	81.6	2.6	※H30から3階廃止 ()=休床病床を除く率		
療養病床利用率(%)	79.2			80.6	83.2	81.5	83.0		79.9		※H29で廃止→R5で介護を廃止		
老健施設利用率(%)								92.0		▲ 92.0	※6階転換(当初)		
平均在院日数(日)	19.9			11.7	12.1	12.1	13.7	14.0	14.3	0.3	※H28からは5Fのみ		
4)経営の安定性に係るもの	H27年度 (実績)			H28年度 (実績)	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度			備考		
								(計画)	(実績)	(計画比)			
常勤医師数(人)	9			9	10	10	11	11	11	0			
現金保有残高(百万円)	192			313	496	580	672	170	691	521			
企業債残高(百万円)	4,350			4,063	3,838	3,552	3,401	3,053	3,247	194			
上記目標数値設定の考え方				地域住民の医療体制の確保及び医療の提供を図るとともに、当院の医療資源を有効に活用した経営の効率化と収支改善の観点により、上記数値目標を設定した。 なお、6階病棟は、H30年度より老健施設等としての目標値を設定した。 新病院改革プラン対象期間中であるR2年度までに経常黒字を目指し、上記数値目標を設定している。 (国のR6年3月末の介護療養病床の廃止を受け、6階の介護療養病床の機能転換を行う。)									

経営の効率化	数値目標達成に向けての具体的な取組計画及び実績	民間的経営手法の導入	計画	実績
			1)2年ごとに改訂される診療報酬にかかる情報の収集及び当院として増益となる部分の検証を進める。 2)職員個々に経営意識を持たせるための職員研修を実施する。 3)人事評価制度により、職員の目標設定の明確化と意識改革を図り、職員資質向上を図る。	1)R2年度診療報酬改定による届出を適正に行った。 2)毎月の部門長会議では、収支状況の説明を行い各部署に伝達した。 3)病院正職全職員を対象とし人事評価を行い、職員資質向上を図った。
		事業規模・形態の見直し	計画	実績
			1)H28年度からの地域包括ケア病床の開設に伴い、回復期機能を充実する。 2)当市は、当分の期間は老年人口の割合が4割を超える状況が続くと見込まれることから、6階療養病床及び3階休止病床を機能転換し、住民ニーズに沿った介護サービス等を提供できる病院を目指す。	1)4階の地域包括ケア病床は、R元年度に比べ病床稼働率1.5%減、入院患者数338人の減となった。 2)3階病床の機能転換を図り、福光保健センター、訪問看護ステーション福光サテライト、南砺市地域包括支援センターサテライトが移転した。介護療養病床は、R6年3月に廃止が決まった。
		経費削減・抑制対策	計画	実績
			1)2病院4診療所の統一可能な経費及び委託業務等で、スケールメリットを活かした経費削減策を検討する。 2)病院機能及び安全対策を確保しながら人員の適正配置を考慮し、人件費抑制を進める。 3)後発医薬品を積極的採用し、薬品費の削減に努める。 4)診療材料費のSPDと共同購入事業の参画により、より安価な商品の導入を進める。 5)事務部門等の集約化を図り、人件費・施設管理費などの抑制に努める。 6)施設や設備の整備については、将来的に診療科などの部門集約や共有化を図っていく方向にあることから、更新等に際しては必要最小限のものにとどめ、経費抑制に努める。	1)施設設備修繕計画及び医療機器更新計画を策定した。 2)常勤内科医が11名となり、今後も適正な人員確保に努め、人件費抑制にも努める。 3)後発医薬品の積極的な採用を行っているが、使用率は、R1年度90.5%からR2年度89.5%と1.0%の減少となった。 4)診療材料費は感染対策に係る材料が新型コロナウイルスの影響により著しく値上がりしたものがあつたが、R1年度に比べ3,150千円の削減となった。今後、更に商品の採用率を高めていく。 5)委託業務・賃貸借契約の一本化が可能な業務の検証と事務系業務一覧の作成等、事務部門の集約化を協議、今後も進めていく。 6)診療設備導入計画に基づき、病院機能を維持するために必要最小限の診療設備の導入・更新を行う。R2年度器械備品購入額183,044千円(乳房撮影装置)
		収入増加・確保対策	計画	実績
			1)常勤医師増員に努め、病棟運営に必要な看護師の確保により患者受入体制を整え、稼働率を向上し収益の増を図る。 2)地域包括ケア病床による回復期機能の強化により、入院収入の増を図る。 3)診療報酬の改定による加算点数の解析を行い、当院での現状と対策を検討する。	1)常勤医師は計画どおり11人確保し、看護師は9人採用、5人退職の4人増となった。病床利用率は、一般で81.6%(R1年度84.2%)、療養で79.9%(R1年度83.0%)と減少となった。 2)R元年度に比べ、入院患者数は1,773人減少となり、入院収益は32,395千円の減となった。 3)未実施。
		その他	計画	実績
			1)常に患者の意見を業務に反映できる体制づくりを行い、患者の満足度と信頼度の高い病院を目指す。	1)退院アンケートの結果は、満足度が計画数より若干下がったが近い数値となっている。患者の意見を参考に満足度の高い病院を目指していく。R2年度退院アンケート件数789件、投書件数9件

各項目における実績の分析と自己評価	地域医療構想を踏まえた役割の明確化	・新型コロナウイルスの影響により救急患者数については、計画数より760件減の1,160件となった。救急搬送者は砺波広域圏の病院群輪番制参加病院に復帰したことにより461件でR元年度実績よりも28件増加、家族等の搬送は699件でR元年度実績よりも349件減少となった。 ・手術件数については、外科、整形外科の手術が主であり、前年度より全体で153件減少となった。 ・患者紹介(転入)は計画に比べ740件の減となった。診療所や介護老人保健施設からの紹介件数が減少したことが要因であった。また、患者逆紹介(転出)は計画に比べ30件の減となった。病院、診療所への逆紹介がいずれも増加したことが要因であった。これからも地域医療を支える病院として医療機関や介護施設等との連携を一層強化することで適正な患者紹介・患者逆紹介に努めたい。 ・在宅復帰率は地域包括ケア病棟入院基本料の施設要件であり70%以上が必要である。入退院支援に携わる医療スタッフの努力により計画の86.0%に比べ5.2%増の91.2%となった。 ・患者満足度については、患者に対する医療スタッフの日々の努力が計画数に近い数値を出しているものとする。 ※以上のことから、概ね計画にあげた目標数値を達成しており、計画は順調に進んでいる。
	経営の効率化	・新型コロナウイルスの影響により入院患者数・外来患者数が減少した。費用については、給与費の減、診療材料費の減、減価償却費の減となり減少した。R2年度は、新型コロナウイルス感染症対策に関連する補助金が86,038千円があり、純損益では103,376千円の黒字となった。 ・入院患者数は内科が減少したが、整形外科で増加、外来患者数はほとんどの科で減少となった。 ・<u>企業債残高については、H29年度のピークが過ぎ、毎年約3億の元金を順調に返済をしている。</u> ・費用について、計画的な医療機器の購入、診療材料の共同購入など節減に努めている。 ※以上のことから、<u>H30年度から3年連続で収益は黒字となった。</u>
	その他	・南砺市立病院運営改革委員会を設置、令和2年10月29日、令和3年3月18日に開催した。また、会議の資料及び議事録を南砺市のホームページに掲載した。

1. 収支計画 (収益的収支)

(単位: 百万円、%)

区 分		年 度					R2年度		
		H27年度 (実績)	H28年度 (実績)	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	(計画)	(実績)	(計画比)
収 入	1. 医 業 収 益 a	1,871	1,983	2,069	2,212	2,138	2,144	2,051	▲ 93
	(1) 料 金 収 入	1,763	1,870	1,960	2,094	2,021	2,031	1,938	▲ 93
	(2) そ の 他	108	113	109	118	117	113	113	0
	うち他会計負担金	36	36	36	36	36	36	36	0
	2. 医 業 外 収 益	447	450	472	479	455	317	535	218
	(1) 他会計負担金・補助金	429	432	431	430	409	292	407	115
	(2) 国 (県) 補 助 金	3	2	3	2	2	3	89	86
	(3) 長 期 前 受 金 戻 入	9	10	26	30	24	8	22	14
	(4) そ の 他	6	6	12	17	20	14	17	3
	経 常 収 益 (A)	2,318	2,433	2,541	2,691	2,593	2,461	2,586	125
支 出	1. 医 業 費 用 b	2,381	2,352	2,434	2,496	2,378	2,319	2,330	11
	(1) 職 員 給 与 費 c	1,352	1,336	1,365	1,395	1,452	1,445	1,416	▲ 29
	(2) 材 料 費	290	293	301	325	307	305	291	▲ 14
	(3) 経 費	410	404	422	435	447	420	452	32
	(4) 減 価 償 却 費	319	313	330	333	161	139	159	20
	(5) そ の 他	10	6	16	8	11	10	12	2
	2. 医 業 外 費 用	140	133	138	130	143	137	152	15
	(1) 支 払 利 息	79	75	70	66	61	57	56	▲ 1
	(2) そ の 他	61	58	68	64	82	80	96	16
	経 常 費 用 (B)	2,521	2,485	2,572	2,626	2,521	2,456	2,482	26
経 常 損 益 (A)－(B) (C)		▲ 203	▲ 52	▲ 31	65	72	5	104	99
特 別 損 益	1. 特 別 利 益 (D)							50	50
	2. 特 別 損 失 (E)			3	6	35		51	51
	特 別 損 益 (D)－(E) (F)	0	0	▲ 3	▲ 6	▲ 35	0	▲ 1	▲ 1
純 損 益 (C)＋(F)		▲ 203	▲ 52	▲ 34	59	37	5	103	98
累 積 欠 損 金 (G)		3,796	3,848	3,882	3,823	3,786	4,236	3,683	▲ 553
不 良 債 務	流 動 資 産 (ア)	501	662	862	959	1,022	450	1,111	661
	流 動 負 債 (イ)	567	569	669	606	637	606	700	94
	うち一時借入金								
	翌年度繰越財源(ウ)								
	当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 差引 不良債務 [(イ)－(エ)]－[(ア)－(ウ)] (オ)	66	▲ 93	▲ 193	▲ 353	▲ 385	156	▲ 411	▲ 567
経 常 収 支 比 率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$		91.9	97.9	98.8	102.5	102.9	100.2	104.2	4.0
不 良 債 務 比 率 $\frac{(オ)}{a} \times 100$		3.5	▲ 4.7	▲ 9.3	▲ 16.0	▲ 18.0	7.3	▲ 20.0	▲ 27.3
医 業 収 支 比 率 $\frac{a}{b} \times 100$		78.6	84.3	85.0	88.6	89.9	92.5	88.0	▲ 4.4
職員給与と費用対医業収益比率 $\frac{c}{a} \times 100$		72.3	67.4	66.0	63.1	67.9	67.4	69.0	1.6
地方財政法施行令第15条第1項 により算定した資金の不足額 (H)		66	▲ 93	▲ 193	▲ 353	▲ 385	156	▲ 411	▲ 567
資 金 不 足 比 率 $\frac{(H)}{a} \times 100$		3.5	▲ 4.7	▲ 9.3	▲ 16.0	▲ 18.0	7.3	▲ 20.0	▲ 27.3
病 床 利 用 率	(一般病床) (病床病床を除く率)	47.0 (68.9)	53.5 (74.5)	57.8 (80.6)	83.6	84.6	79.0	81.6	2.6
	(療養病床)	79.2	80.6	83.2	81.5	83.0		79.9	79.9

2. 収支計画(資本的収支)

(単位:百万円、%)

年度		H27年度 (実績)	H28年度 (実績)	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度		
区分							(計画)	(実績)	(計画比)
収 入	1. 企 業 債	44	28	95	34	159	27	157	130
	2. 他 会 計 出 資 金	186	195	198	198	202	199	203	4
	3. 他 会 計 負 担 金								
	4. 他 会 計 借 入 金								
	5. 他 会 計 補 助 金								
	6. 国 (県) 補 助 金	3	3	32		3	3	54	51
	7. そ の 他							1	
	収 入 計 (a)	233	226	325	232	364	229	415	186
	うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額 (b)								
	前年度許可債で当年度借入分 (c)								
	純計(a)－[(b)+(c)] (A)	233	226	325	232	364	229	415	186
支 出	1. 建 設 改 良 費	56	36	128	47	175	33	250	217
	2. 企 業 債 償 還 金	299	315	320	320	310	307	311	4
	3. 他 会 計 長 期 借 入 金 返 還 金	54	59	68	67	90	68	76	8
	4. そ の 他								
	支 出 計 (B)	409	410	516	434	575	408	637	229
	差 引 不 足 額 (B)－(A) (C)	176	184	191	202	211	179	222	43
補 て ん 財 源	1. 損 益 勘 定 留 保 資 金	176	184	191	202	211	179	222	43
	2. 利 益 剰 余 金 処 分 額								
	3. 繰 越 工 事 資 金								
	4. そ の 他								
	計 (D)	176	184	191	202	211	179	222	43
	補てん財源不足額 (C)－(D) (E)	0	0	0	0	0	0	0	0
	当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 (F)								
	実 質 財 源 不 足 額 (E)－(F)	0	0	0	0	0	0	0	0

3. 一般会計等からの繰入金の見通し

	H27年度 (実績)	H28年度 (実績)	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度		
						(計画)	(実績)	(計画比)
収 益 的 収 支	(306) 465	(312) 468	(313) 467	(305) 466	(283) 445	(110) 328	(190) 444	(80) 116
資 本 的 収 支	186	195	198	198	202	199	(21) 224	(21) 25
合 計	(306) 651	(312) 663	(313) 665	(305) 664	(283) 647	(110) 527	(211) 668	(101) 141

(注)

1 ()内はうち基準外繰入金額

2 「基準外繰入金」とは、「地方公営企業繰出金について」(総務副大臣通知)に基づき他会計から公営企業会計へ繰り入れられる繰入金以外の繰入金をいう

4. 一般会計長期借入金の見通し

	H27年度 (実績)	H28年度 (実績)	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度		
						(計画)	(実績)	(計画比)
借 入 額	210	100	0	0	0	0	0	0
借 入 額 計	785	831	771	703	635	568	546	▲ 22
償 還 額	54	60	68	68	90	68	76	8
年度末借入残高	731	771	703	635	545	500	470	▲ 30

新南砺市立病院改革プラン

(令和3年度～令和7年度)

南 砺 市 民 病 院
公立南砺中央病院

令和3年3月19日策定

南砺市

新南砺市立病院改革プラン(南砺市民病院)

団体コード	162108
施設コード	001

団 体 名		南砺市							
プ ラ ン の 名 称		新南砺市立病院改革プラン(南砺市民病院)							
策 定 日		令和 3 年 3 月 19 日							
対 象 期 間		令和 3 年度 ～ 令和 7 年度							
病院の現状	病 院 名	南砺市民病院			現在の経営形態		公営企業法財務適用		
	所 在 地	富山県南砺市井波938番地							
	病 床 数	病床種別	一般	療養	精神	結核	感染症	計	
			175					175	
		一般・療養病床の病床機能	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計※	※一般・療養病床の合計数と一致する	
			96	79		175			
診療科目	科目名	内科、心療内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科(人工透析)、糖尿病・代謝・内分泌内科、血液内科、精神科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、肛門外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、病理診断科、リハビリテーション科、放射線科、歯科口腔外科(計25科目)							
(1) 地域医療構想を踏まえた役割の明確化	① 地域医療構想を踏まえた当該病院の果たすべき役割(対象期間末における具体的な将来像)		1)市立病院として果たすべき役割 当該地域の民間医療機関等が減少していく中において、住民の医療を確保するとともに、地域の一般医療機関では対応できない質の高い医療を行うための施設、設備等を有する中核的な医療を担う機関として、地域の医療水準の向上に貢献する。 ・診療圏域における中核病院としての適正な一般医療の提供 ・二次医療圏域における救急医療の提供と連携 ・国保直施設としての保健活動 ・へき地診療施設への医師派遣等の後方支援 ・地域包括ケアの推進と在宅医療等の充実 ・災害の緊急時に対応できる医療の提供 2)地域医療構想等を踏まえた当院の役割 富山県の地域医療構想及び患者数の動向(市の人口は減少するが、医療需要の高い高齢者人口が横ばいで推移)を踏まえ、病床機能と病床数を維持し、引き続き、当院が担っている救急、急性期、回復期医療の役割とともに次の役割を果たす。 ・研修医・医学生等の積極的な受入による医師の人材育成 ・総合診療と専門医医療の融合						
	令和7年(2025年)における当該病院の具体的な将来像		病院組織の人事、予算及び施設や設備の整備を一体的に管理・運営する経営統合を5年以内での実施を目指し、さらに病院機能の集約・分担化を進め、財政的にも健全な病院経営を目指す。具体的には、2箇所の建物を持つ市立南砺総合病院(仮称)を想定し、次の取組を行う。 ・引き続き高齢者を中心とした診療体制とするが、将来的な医療需要と地域包括ケアシステムの進展を見据え、市立2病院合わせて病床数200～250床程度の病床機能を想定した取組に努める。 ・すべての部門において、収支状況の把握と将来予測を行い、期限を定めたうえで部門によっては廃止、あるいは集約することにより、人件費・施設管理費などの経費削減に努める。 ・外来診療は、2病院(建物)間で機能分担可能な診療科を絞り込み、1病院に集約、あるいは両病院の診療を担う。						
	② 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割		これまでの病院完結型の医療から、地域全体で治し、支える地域完結型の医療への転換の観点から、一つの医療機関として、地域における医療・介護・福祉の関係機関と連携・ネットワークを図り、地域包括ケアシステムを推進する。 ・地域で必要とされる訪問診療の展開 ・総合診療及び急性期、回復期の病床機能による治療と在宅復帰支援 ・訪問看護及び介護関係機関等との連携による退院支援 ・民間開業医との医療連携と緊急時入院受入などの後方支援						
	③ 一般会計負担の考え方(繰出基準の概要)		地方公営企業として病院事業経営の独立採算制を追求し、効率的な経営に努めることが必要である。しかし、自治体病院としての役割を果たすため、公共性の観点から救急医療や医療相談など行政が行う事業を実施し、へき地医療や在宅医療、特殊医療など当該地域の一般医療機関では採算を確保することが困難な医療も担っている。これらの経費の一部については、市財政当局と協議し一般会計から繰り入れるものとするが、市の財政事情等が今後非常に厳しくなってくる状況を踏まえ、削減に取り組むものとする。※詳細は別紙2のとおり						
	④ 医療機能等指標に係る数値目標								
1)医療機能・医療品質に係るもの		元年度(実績)	2年度(見込)	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	備考
救急患者数(時間外外来)〈人〉		3,317	2,990	3,140	3,122	3,059	2,998	2,938	
手術件数(件)		658	617	630	650	655	660	665	
患者紹介(転入)延べ件数(件)		2,203	1,937	2,000	2,100	2,200	2,300	2,400	
患者逆紹介(転出)延べ件数(件)		1,859	1,776	1,800	1,850	1,900	1,950	2,000	
在宅復帰率(回復期病床・%)		93.9	95.7	95.9	96.1	96.3	96.5	96.7	
在宅復帰率(地域包括ケア病床・%)		77.7	81.6	81.8	82.0	82.2	82.4	82.6	
2)患者満足度(%)		元年度(実績)	2年度(見込)	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	備考
診療(検査・治療)内容		99.4	99.4	99.4	99.4	99.5	99.5	99.5	
入院中の看護内容		99.2	99.2	99.3	99.4	99.5	99.5	99.5	
受付窓口の接客態度		98.5	98.8	98.9	99.0	99.0	99.0	99.0	
食事の内容		95.2	96.0	96.5	97.0	97.5	98.0	98.0	
⑤ 住民の理解のための取組		当該病院改革プラン案については、次期病院改革プラン策定に係るガイドラインが示されていないことから、平成29年3月策定の「新南砺市立病院改革プラン」の内容を主軸としつつ、平成28年度から令和元年度までの社会情勢や環境変化を考慮し策定した。改革プランは南砺市議会において協議の場を設けるとともに、市民にホームページ等で公表し、パブリックコメントを行った。診療科等の医療機能の見直しについては市の広報誌、病院広報誌などで理解いただけるよう取り組む。							

(2) 経営の効率化	① 経営指標に係る数値目標	
	1) 収支改善に係るもの	元年度(実績) 2年度(見込) 3年度 4年度 5年度 6年度 7年度 備考
	経常収支比率(%)	100.2 100.0 97.5 98.6 100.1 100.2 100.3
	医業収支比率(%)	92.9 89.7 90.6 92.7 94.5 94.7 94.7
	不良債務比率(%)	▲ 43.9 ▲ 44.7 ▲ 44.5 ▲ 43.5 ▲ 45.5 ▲ 49.2 ▲ 46.6
	累積欠損金比率(%)	48.0 46.9 48.3 47.9 46.6 46.2 45.8
	2) 経費削減に係るもの	元年度(実績) 2年度(見込) 3年度 4年度 5年度 6年度 7年度 備考
	診療材料費の対医業収益比率(%)	13.1 14.7 13.3 13.2 13.3 13.2 13.3
	委託費の対医業収益比率(%)	9.9 10.2 11.4 11.0 11.0 11.0 11.0
	人件費の対医業収益比率(%)	70.4 72.5 71.8 69.3 67.5 67.3 67.2
	減価償却費の対医業収益比率(%)	7.6 7.4 7.1 7.4 7.1 7.1 7.1
	3) 収入確保に係るもの	元年度(実績) 2年度(見込) 3年度 4年度 5年度 6年度 7年度 備考
	1日当たり入院患者数(人)	151.0 141.7 150.8 151.0 152.3 153.2 154.0
	1日当たり外来患者数(人)	379.2 343.5 360.7 356.9 349.8 342.8 335.9
	病床利用率(%)	86.3 79.6 86.2 86.3 87.0 87.5 88.0
	平均在院日数(日)	15.7 15.6 15.5 15.3 15.0 14.7 14.5
	4) 経営の安定性に係るもの	元年度(実績) 2年度(見込) 3年度 4年度 5年度 6年度 7年度 備考
	常勤医師数(人)	25 26 26 24 24 23 22
	現金保有残高(百万円)	1,413 1,508 1,523 1,572 1,685 1,805 1,658
	企業債残高(百万円)	2,845 2,657 2,352 2,114 1,873 1,633 1,444
	上記数値目標設定の考え方	地域住民の医療体制の確保及び医療の提供を図るとともに、当院の医療資源を有効に活用した経営の効率化と収支改善の観点により、上記数値目標を設定した。
	② 経常収支比率に係る目標設定の考え方	主な取り組みとして、外科分野の体制強化を図り、入院診療単価及び病床稼働率の向上を図る。総合診療医(後期研修医)を病院単独プログラムで育成し、医師数充実や病院機能・患者支援体制の強化により、効率の良い医療提供を行う。また、経常的経費(施設維持管理ほか)の増加を最小限に留め、減価償却費の減により、医業費用の増大の抑制を図る。 新病院改革プラン対象期間である令和7年度までのうち、新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えが少なくなると見込まれる令和5年度以降は経常黒字となることを目指し、上記数値目標を設定している。
	③ 目標達成に向けた具体的な取組	民間的経営手法の導入 事業規模・事業形態の見直し 経費削減・抑制対策 収入増加・確保対策 その他
	④ 新改革プラン対象期間中の各年度の収支計画等	別紙1(市民病院)記載

(3) 再編・ネットワーク化	当該公立病院の状況	☐ 施設の新設・建替等を行う予定がある ☐ 病床利用率が特に低水準(過去3年間連続して70%未満) ☐ 地域医療構想等を踏まえ医療機能の見直しを検討する必要がある	
	二次医療又は構想区域内の病院等配置の現況	当院の二次医療又は構想区域は砺波市、小矢部市、南砺市からなる砺波医療圏に属し、圏域内の病院等は別紙3のとおり。当該医療圏域においては、公的病院以外に一般病床を有する病院はなく、高度急性期、急性期、回復期機能は公的病院が担っている。一方で療養病床等の慢性期機能のほとんどは民間病院が担っているが、病床稼働率は高く推移し、今後も需要が見込まれる。	
	当該病院に係る再編・ネットワーク化計画の概要	<時 期> 令和7年度まで	<内 容> 南砺市立病院においては、市民に必要な急性期と回復期病床を中心に担うことから、砺波医療圏で機能分化される公的病院及び民間病院との病院間連携を推進し、市民に効率的・効果的な医療体制を構築する。砺波医療圏の中核病院である市立砺波総合病院とは、救急医療を始め、当院で対応できない高度急性期医療、産科及び周産期医療の連携を推進し、慢性期医療については、圏域内の民間病院と連携していく。 市立2病院間においては、経営統合の方針のもと、病院機能の集約・分担化を進め、2箇所の建物を持つ市立南砺総合病院(仮称)を目指した取組を進める。
(4) 経営形態の見直し	経営形態の現況 (該当箇所に✓を記入)	☒ 公営企業法財務適用 ☐ 公営企業法全部適用 ☐ 地方独立行政法人 ☐ 指定管理者制度 ☐ 一部事務組合・広域連合	
	経営形態の見直し(検討)の方向性 (該当箇所に✓を記入、検討中の場合は複数可)	☐ 公営企業法全部適用 ☐ 地方独立行政法人 ☐ 指定管理者制度 ☐ 民間譲渡 ☐ 診療所化 ☐ 老健施設など、医療機関以外の事業形態への移行	
	経営形態見直し計画の概要	<時 期>	<内 容> 当面は、経営形態を変える予定はないが、市立2病院の経営、組織の機能集約を図り、改善を図る。
	(5)(都道府県以外記載)新改革プラン策定に関する都道府県からの助言や再編・ネットワーク化計画策定への都道府県の参画の状況		
※点検・評価・公表等	点検・評価・公表等の体制 (委員会等を設置する場合その概要)	医療に係る学識経験者、地域医療の識見者、市民団体の代表者及び市民公募者等からなる南砺市立病院運営改革委員会を設置し、評価・検証する。市の内部組織として開設者、病院長、行革担当、財政担当者及び病院事務関係者等で組織する病院改革推進委員会を設置し、病院改革プランの点検・評価及び方策の推進を図る。 なお、点検・評価の結果を検証し、数値目標の達成が著しく困難な場合や取組内容に大きな変更が生じた場合には、本改革プランの改定を行うものとする。	
	点検・評価の時期	毎年9月下旬頃	
	公表の方法	点検・評価の結果及び南砺市病院運営改革委員会の資料及び会議内容をホームページ等で公表する。	
その他特記事項		当該新南砺市立病院改革プランにおける病院の役割、対象期間の取組、再編の方向性等については、庁内組織である南砺市立病院あり方検討委員会及び外部の有識者、市民団体、公募委員等で組織した新南砺市立病院改革プラン策定委員会において協議した「南砺市立病院のあり方のまとめ」に基づくものである。	

1. 収支計画 (収益的収支)

(単位:百万円、%)

年度		30年度(実績)	元年度(実績)	2年度(見込)	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
区分									
収入	1. 医 業 収 益 a	3,288	3,229	3,303	3,411	3,551	3,645	3,654	3,660
	(1) 料 金 収 入	3,102	3,054	3,133	3,239	3,379	3,473	3,482	3,488
	(2) そ の 他	186	175	170	172	172	172	172	172
	うち他会計負担金	38	40	40	40	40	40	40	40
	2. 医 業 外 収 益	422	402	539	416	382	370	366	364
	(1) 他会計負担金・補助金	377	364	367	373	339	327	323	321
	(2) 国 (県) 補 助 金	13	13	137	10	10	10	10	10
	(3) 長 期 前 受 金 戻 入	20	15	23	23	23	23	23	23
	(4) そ の 他	11	10	12	10	10	10	10	10
	経 常 収 益 (A)	3,710	3,631	3,842	3,827	3,933	4,015	4,020	4,024
支出	1. 医 業 費 用 b	3,527	3,477	3,681	3,764	3,830	3,857	3,860	3,863
	(1) 職 員 給 与 費 c	2,244	2,274	2,395	2,448	2,460	2,460	2,460	2,460
	(2) 材 料 費	470	423	487	453	470	483	484	485
	(3) 経 費	530	508	526	585	602	618	619	620
	(4) 減 価 償 却 費	264	247	246	241	261	259	260	261
	(5) そ の 他	19	25	27	37	37	37	37	37
	2. 医 業 外 費 用	129	147	162	161	157	153	151	148
	(1) 支 払 利 息	48	44	39	35	31	27	25	22
	(2) そ の 他	81	103	123	126	126	126	126	126
	経 常 費 用 (B)	3,656	3,624	3,843	3,925	3,987	4,010	4,011	4,011
経 常 損 益 (A)-(B) (C)		54	7	▲ 1	▲ 98	▲ 54	5	9	13
特別損益	1. 特 別 利 益 (D)			79					
	2. 特 別 損 失 (E)			79					
	特 別 損 益 (D)-(E) (F)	0	0	0	0	0	0	0	0
純 損 益 (C)+(F)		54	7	▲ 1	▲ 98	▲ 54	5	9	13
累 積 欠 損 金 (G)		1,556	1,549	1,550	1,648	1,702	1,697	1,688	1,675
不良債権	流 動 資 産 (ア)	1,981	2,039	2,135	2,126	2,142	2,255	2,375	2,228
	流 動 負 債 (イ)	646	620	657	609	599	596	576	523
	うち一時借入金								
	翌年度繰越財源(ウ)								
	当年度同意等債で未借入又は未発行の額(エ)								
不良債権差引 [(イ)-(エ)] - [(ア)-(ウ)] (オ)		▲ 1,335	▲ 1,419	▲ 1,478	▲ 1,517	▲ 1,543	▲ 1,659	▲ 1,799	▲ 1,705
経 常 収 支 比 率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$		101.5	100.2	100.0	97.5	98.6	100.1	100.2	100.3
不 良 債 権 比 率 $\frac{(オ)}{a} \times 100$		▲ 40.6	▲ 43.9	▲ 44.7	▲ 44.5	▲ 43.5	▲ 45.5	▲ 49.2	▲ 46.6
医 業 収 支 比 率 $\frac{a}{b} \times 100$		93.2	92.9	89.7	90.6	92.7	94.5	94.7	94.7
職員給与費対医業収益比率 $\frac{c}{a} \times 100$		68.2	70.4	72.5	71.8	69.3	67.5	67.3	67.2
地方財政法施行令第15条第1項により算定した資金の不足額 (H)		▲ 1,335	▲ 1,419	▲ 1,478	▲ 1,517	▲ 1,543	▲ 1,659	▲ 1,799	▲ 1,705
資 金 不 足 比 率 $\frac{(H)}{a} \times 100$		▲ 40.6	▲ 43.9	▲ 44.7	▲ 44.5	▲ 43.5	▲ 45.5	▲ 49.2	▲ 46.6
病 床 利 用 率		86.2	86.3	79.6	86.2	86.3	87.0	87.5	88.0

団体名 (病院名)	南砺市(南砺市民病院)
--------------	-------------

2. 収支計画(資本的収支)

(単位:百万円、%)

年度		30年度(実績)	元年度(実績)	2年度(見込)	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
区 分									
収 入	1. 企 業 債	43	138	139	71	45	45	45	75
	2. 他 会 計 出 資 金	220	192	182	203	168	155	154	135
	3. 他 会 計 負 担 金								
	4. 他 会 計 借 入 金								
	5. 他 会 計 補 助 金								
	6. 国 (県) 補 助 金	0	58	19	3	0	3	3	3
	7. そ の 他								
	収 入 計 (a)	263	388	340	277	213	203	202	213
	うち翌年度へ繰り越される 支 出 の 財 源 充 当 額 (b)								
	前年度許可債で当年度借入分 (c)								
支 出	純計(a)－[(b)+(c)] (A)	263	388	340	277	213	203	202	213
	1. 建 設 改 良 費	51	243	178	97	50	50	50	103
	2. 企 業 債 償 還 金	377	339	327	351	304	287	284	264
	3. 他 会 計 長 期 借 入 金 返 還 金								
	4. そ の 他								
差 引 不 足 額	支 出 計 (B)	428	582	505	448	354	337	334	367
	(C)＝(B)－(A)	165	194	165	171	141	134	132	154
補てん財源	1. 損 益 勘 定 留 保 資 金	165	194	165	171	141	134	132	154
	2. 利 益 剰 余 金 処 分 額								
	3. 繰 越 工 事 資 金								
	4. そ の 他								
当 年 度 同 意 等 債 で 未 借 入 又 は 未 発 行 の 額	計 (D)	165	194	165	171	141	134	132	154
	(E)＝(C)－(D)	0	0	0	0	0	0	0	0
	(F)＝(E)－(D)								
実 質 財 源 不 足 額 (E)－(F)		0	0	0	0	0	0	0	0

3. 一般会計等からの繰入金の見通し

(単位:百万円)

	30年度(実績)	元年度(実績)	2年度(見込)	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
収 益 的 収 支	(184) 415	(168) 404	(142) 407	(140) 412	(114) 378	(104) 367	(102) 363	(102) 361
資 本 的 収 支	220	192	182	203	168	155	154	135
合 計	(184) 635	(168) 596	(142) 589	(140) 615	(114) 546	(104) 522	(102) 517	(102) 496

(注)

1 ()内はうち基準外繰入金額

2 「基準外繰入金」とは、「地方公営企業繰出金について」(総務副大臣通知)に基づき他会計から公営企業会計へ繰り入れられる繰入金以外の繰入金をいう

新南砺市立病院改革プラン(公立南砺中央病院)

団体コード	162108
施設コード	003

団 体 名		南砺市							
プ ラ ン の 名 称		新南砺市立病院改革プラン(公立南砺中央病院)							
策 定 日		令和 3 年 3 月 19 日							
対 象 期 間		令和 3 年度 ～ 令和 7 年度							
病院 の 現 状	病 院 名	公立南砺中央病院			現在の経営形態		公営企業法財務適用		
	所 在 地	南砺市梅野2007番地5							
	病 床 数	病床種別	一般	療養	精神	結核	感染症	計	
			104	45				149	
		一般・療養病床の病床機能	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計※	※一般・療養病床の合計数と一致する	
			52	52	45	149			
診 療 科 目		科目名	内科、心療内科・精神科、呼吸器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、消化器科、リハビリテーション科、放射線科(計16科目)						
(1) 地域医療構想を踏まえた役割の明確化	① 地域医療構想を踏まえた当該病院の果たすべき役割(対象期間末における具体的な将来像)	1)市立病院として果たすべき役割 当該地域の民間医療機関等が減少していく中において、住民の医療を確保するとともに、地域の一般医療機関では対応できない質の高い医療を行うための施設、設備等を有する中核的な医療を担う機関として、地域の医療水準の向上に貢献する。 ・診療圏域における中核病院としての適正な一般医療の提供 ・二次医療圏域における救急医療の提供と連携 ・国保直診施設としての保健活動 ・へき地診療施設への医師派遣等の後方支援 ・地域包括ケアの推進と在宅医療等の充実 ・災害の緊急時に対応できる医療の提供 2)地域医療構想を踏まえた当院の役割 富山県の地域医療構想及び患者数の動向(市の人口は減少するが、医療需要の高い高齢者人口が横ばいで推移)を踏まえ、引き続き、当院が担っている救急、急性期医療の役割とともに次の役割を果たす。 ・地域包括ケア病床による回復期機能の強化 ・研修医・医学生・看護学生等の積極的な受入による人材育成 ・療養病床を継続し、慢性期患者を受け入れる							
	令和7年(2025年)における当該病院の具体的な将来像	病院組織の人事、予算及び施設や設備の整備を一体的に管理・運営する経営統合を5年以内での実施を目指し、さらに病院機能の集約・分担化を進め、財政的にも健全な病院経営を目指す。具体的には、2箇所の建物を持つ市立南砺総合病院(仮称)を想定し、次の取組を行う。 ・引き続き高齢者を中心とした診療体制とするが、将来的な医療需要と地域包括ケアシステムの進展を見据え、市立2病院合わせて病床数200～250床程度の病床機能を想定した取組に努める。 ・すべての部門において、収支状況の把握と将来予測を行い、期限を定めたうえで部門によっては廃止、あるいは集約することにより、人件費・施設管理費などの経費削減に努める。 ・外来診療は、2病院(建物)間で機能分担可能な診療科を絞り込み、1病院に集約、あるいは両病院の診療を担う。							
	② 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割	これまでの病院完結型の医療から、地域全体で治し、支える地域完結型の医療への転換の観点から、一つの医療機関として、地域における医療・介護・福祉の関係機関と連携・ネットワークを図り、地域包括ケアシステムを推進する。 ・地域で必要とされる訪問診療の展開 ・総合診療及び急性期、回復期の病床機能による治療と在宅復帰支援 ・訪問看護及び介護関係機関等との連携による退院支援 ・民間開業医との医療連携と緊急時入院受入などの後方支援							
③ 一般会計負担の考え方(繰出基準の概要)		地方公営企業として病院事業経営の独立採算制を追求し、効率的な経営に努めることが必要である。しかし、自治体病院としての役割を果たすため、公共性の観点から救急医療や医療相談など行政が行う事業を実施し、へき地医療や在宅医療、特殊医療など当該地域の一般医療機関では採算を確保することが困難な医療も担っている。これらの経費の一部については、市財政当局と協議し一般会計から繰り入れるものとするが、市の財政事情等が今後非常に厳しくなってくる状況を踏まえ、削減に取り組むものとする。※詳細は別紙2のとおり							
④ 医療機能等指標に係る数値目標									
1)医療機能・医療品質に係るもの		元年度(実績)	2年度(見込)	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	備考
救急患者数(時間外外来)〈人〉		1,481	1,162	1,293	1,267	1,241	1,217	1,192	
手術件数(件)		430	336	400	425	430	435	440	
患者紹介(転入)件数(人)		1,370	1,187	1,223	1,376	1,404	1,432	1,460	
患者逆紹介(転出)件数(人)		1,144	1,056	1,088	1,120	1,143	1,166	1,189	
在宅復帰率(地域包括ケア病床・%)		90.3	92.4	92.0	92.0	93.0	93.0	93.0	
2)患者満足度(%)		元年度(実績)	2年度(見込)	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	備考
診療(検査・治療)内容について		98.2	97.6	98.0	98.1	98.1	98.2	98.2	
入院中の看護内容について		97.8	98.3	98.3	98.4	98.4	98.5	98.5	
受付窓口の接客態度について		98.7	98.5	98.6	99.0	99.0	99.0	99.0	
食事の内容について		93.0	93.4	93.5	94.1	94.1	94.2	94.2	
⑤ 住民の理解のための取組		当該病院改革プラン案については、次期病院改革プラン策定に係るガイドラインが示されていないことから、平成29年3月策定の「新南砺市立病院改革プラン」の内容を主軸としつつ、平成28年度から令和元年度までの社会情勢や環境変化を考慮し策定した。改革プランは南砺市議会において協議の場を設けるとともに、市民にホームページ等で公表し、パブリックコメントを行った。診療科等の医療機能の見直しについては市の広報誌、病院広報誌などで理解いただけるよう取り組む。							

(2) 経営の効率化	① 経営指標に係る数値目標								
	1) 収支改善に係るもの	元年度(実績)	2年度(見込)	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	備考
	経常収支比率(%)	102.9	102.8	96.5	101.1	100.6	100.9	100.7	
	医業収支比率(%)	89.9	86.5	85.0	90.0	90.0	89.8	89.8	
	不良債務比率(%)	▲ 18.0	▲ 16.6	▲ 8.0	▲ 8.3	▲ 8.7	▲ 10.3	▲ 11.8	
	累積欠損金比率(%)	177.1	184.1	170.7	160.6	159.3	158.1	157.3	
	2) 経費削減に係るもの	元年度(実績)	2年度(見込)	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	備考
	材料費の対医業収益比率(%)	14.4	14.5	13.7	13.6	13.5	13.5	13.5	
	委託費の対医業収益比率(%)	13.4	14.9	13.4	12.7	12.7	12.7	12.7	
	職員給与費の対医業収益比率(%)	67.9	70.3	73.9	70.0	69.7	69.7	69.7	
	減価償却費の対医業収益比率(%)	7.5	7.9	7.8	8.0	8.2	8.8	8.7	
	3) 収入確保に係るもの	元年度(実績)	2年度(見込)	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	備考
	1日当たり入院患者数(人)	125.4	118.8	117.2	126.0	126.0	128.0	128.0	
	1日当たり外来患者数(人)	309.2	268.4	310.0	312.0	314.0	316.0	318.0	
	一般病床利用率(%)	84.6	79.8	80.0	83.6	83.6	84.7	84.7	
	療養病床利用率(%)	83.0	79.2	80.0	82.4	82.4	83.0	83.0	R6介護療養病床転換
	平均在院日数(日)	13.7	14.3	14.0	14.4	14.4	14.5	14.5	
	4) 経営の安定性に係るもの	元年度(実績)	2年度(見込)	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	備考
	常勤医師数(人)	11	11	12	12	12	12	12	R3・・・内科医師1名増員
	現金保有残高(百万円)	672	641	493	511	514	547	588	
	企業債残高(百万円)	3,401	3,247	3,029	2,792	2,650	2,335	2,098	
	上記数値目標設定の考え方	地域住民の医療体制の確保及び医療の提供を図るとともに、当院の医療資源を有効に活用した経営の効率化と収支改善の観点により、上記数値目標を設定した。 令和6年度から6階の介護療養病床を転換し、療養病床棟入院基本料1から2として目標値を設定した。							
	② 経常収支比率に係る目標設定の考え方	主な収支の動きについては、新型コロナウイルスの今後の影響が見えないなか、令和3年度以降において医師1名を増員し、常勤医師が12名になることにより、入院患者受入の拡充を図って病床利用率を上げることで医業収益の増を見込んでいる。 医業費用については、医師・看護師の増員による給与費は増、医療機器更新による減価償却費の増となるが、経常的経費(施設維持管理ほか)・材料費の削減に努め、黒字を目指す。 新病院改革プラン対象期間中である令和7年度まで経常黒字の継続を目指し、上記数値目標を設定している。							
	③ 目標達成に向けた具体的な取組	民間的経営手法の導入	1)2年ごとに改訂される診療報酬にかかる情報の収集及び当院として増益となる部分の検証を進める。 2)職員個々に経営意識を持たせるための職員研修を実施する。 3)人事評価制度により、職員の目標設定の明確化と意識改革を図り、職員資質向上を図る。						
		事業規模・事業形態の見直し	1)国の令和6年3月末の介護療養病床の廃止を受け、6階の介護療養病床の機能転換を行う。						
		経費削減・抑制対策	1)2病院4診療所の統一可能な経費及び委託業務等で、スケールメリットを活かした経費削減策を検討する。 2)病院機能及び安全対策を確保しながら人員の適正配置を考慮し、人件費抑制を進める。 3)後発医薬品を積極的採用し、薬品費の削減に努める。 4)診療材料費のSPDと共同購入事業の参画により、より安価な商品の導入を進める。 5)事務部門等の集約化を図り、人件費・施設管理費などの抑制に努める。 6)施設や設備の整備については、将来的に診療科などの部門集約や共有化を図っていく方向にあることから、更新等に際しては必要最小限のものにとどめ、経費抑制に努める。						
収入増加・確保対策		1)常勤医師増員に努め、病棟運営に必要な看護師の確保により患者受入体制を整え、稼働率を向上し収益の増を図る。 2)地域包括ケア病床による回復期機能の強化により、入院収入の増を図る。 3)診療報酬の改定による加算点数の解析を行い、当院での現状と対策を検討する。							
その他		1)常に患者の意見を業務に反映できる体制づくりを行い、患者の満足度と信頼度の高い病院を目指す。							
④ 新改革プラン対象期間中の各年度の収支計画等	別紙1(中央病院)記載								

(3) 再編・ネットワーク化	当該公立病院の状況	☐ 施設の新設・建替等を行う予定がある ☐ 病床利用率が特に低水準(過去3年間連続して70%未満) ☐ 地域医療構想等を踏まえ医療機能の見直しを検討する必要がある	
	二次医療又は構想区域内の病院等配置の現況	当院の二次医療又は構想区域は砺波市、小矢部市、南砺市からなる砺波医療圏に属し、圏域内の病院等は別紙3のとおり。当該医療圏域においては、公的病院以外に一般病床を有する病院はなく、高度急性期、急性期、回復期機能は公的病院が担っている。一方で療養病床等の慢性期機能のほとんどは民間病院が担っているが、病床稼働率は高く推移し、今後も需要が見込まれる。	
	当該病院に係る再編・ネットワーク化計画の概要	<時 期> 令和7年度まで	<内 容> 南砺市立病院においては、市民に必要な急性期と回復期病床を中心に担うことから、砺波医療圏で機能分化される公的病院及び民間病院との病院間連携を推進し、市民に効率的・効果的な医療体制を構築する。砺波医療圏の中核病院である市立砺波総合病院とは、救急医療を始め、当院で対応できない高度急性期医療、産科及び周産期医療の連携を推進し、慢性期医療については、療養病床を継続するほか、圏域内の民間病院と連携していく。 市立2病院間においては、経営統合の方針のもと、病院機能の集約・分担化を進め、2箇所の建物を持つ市立南砺総合病院(仮称)を目指した取組を進める。
(4) 経営形態の見直し	経営形態の現況 (該当箇所)に✓を記入)	☒ 公営企業法財務適用 ☐ 公営企業法全部適用 ☐ 地方独立行政法人 ☐ 指定管理者制度 ☐ 一部事務組合・広域連合	
	経営形態の見直し(検討)の方向性 (該当箇所)に✓を記入、検討中の場合は複数可)	☐ 公営企業法全部適用 ☐ 地方独立行政法人 ☐ 指定管理者制度 ☐ 民間譲渡	
	経営形態見直し計画の概要	<時 期> 令和6年度	<内 容> 経営形態を変える予定はなく、市立2病院の経営、組織の機能集約を図り、改善を図る。 6階の療養病棟の介護療養病床(24床)を医療療養病床に転換し、療養病棟入院基本料1から入院基本料2に切り替えていく。
	(5)(都道府県以外記載)新改革プラン策定に関する都道府県からの助言や再編・ネットワーク化計画策定への都道府県の参画の状況	新改革プランの策定にあたり、地域医療構想や医療圏域の医療機関との連携も必要なことから、改革プランの進捗を管理する南砺市立病院運営改革委員会の委員として、富山県砺波厚生センター所長に参画いただいた。	
※点検・評価・公表等	点検・評価・公表等の体制 (委員会等を設置する場合その概要)	医療に係る学識経験者、地域医療の識見者、市民団体の代表者及び市民公募者等からなる南砺市立病院運営改革委員会(仮称)を設置し、評価・検証する。市の内部組織として開設者、病院長、行革担当、財政担当者及び病院事務関係者等で組織する病院改革推進委員会(仮称)を設置し、病院改革プランの点検・評価及び方策の推進を図る。 なお、点検・評価の結果を検証し、数値目標の達成が著しく困難な場合や取組内容に大きな変更が生じた場合には、本改革プランの改定を行うものとする。	
	点検・評価の時期	毎年9月下旬頃	
	公表の方法	点検・評価の結果及び南砺市病院運営改革委員会(仮称)の資料及び会議内容をホームページ等で公表する。	
その他特記事項		当該新南砺市立病院改革プランにおける病院の役割、対象期間の取組、再編の方向性については、庁内組織である南砺市立病院あり方検討委員会及び外部の有識者、市民団体、公募委員等で組織した新南砺市立病院改革プラン策定委員会において協議した「南砺市立病院のあり方のまとめ」に基づくものである。	

1. 収支計画 (収益的収支)

(単位: 百万円、%)

年度		30年度(実績)	元年度(実績)	2年度(見込)	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
区分									
収	1. 医 業 収 益 a	2,212	2,138	2,020	2,235	2,358	2,366	2,368	2,368
	(1) 料 金 収 入	2,094	2,021	1,911	2,123	2,242	2,250	2,252	2,252
	(2) そ の 他	118	117	109	112	116	116	116	116
	うち他会計負担金	36	36	36	36	36	36	36	36
	2. 医 業 外 収 益	479	455	537	441	427	423	415	411
	(1) 他会計負担金・補助金	430	409	407	396	384	380	374	371
	(2) 国 (県) 補 助 金	2	2	89	3	3	3	3	3
	(3) 長 期 前 受 金 戻 入	30	24	22	23	23	23	21	20
	(4) そ の 他	17	20	19	19	17	17	17	17
	経 常 収 益 (A)	2,691	2,593	2,557	2,676	2,785	2,789	2,783	2,779
入	1. 医 業 費 用 b	2,496	2,378	2,334	2,628	2,619	2,630	2,636	2,636
	(1) 職 員 給 与 費 c	1,395	1,452	1,420	1,652	1,650	1,650	1,650	1,650
	(2) 材 料 費	325	307	293	307	320	320	320	320
	(3) 経 費	435	447	450	483	450	450	450	450
	(4) 減 価 償 却 費	333	161	160	174	188	195	208	205
	(5) そ の 他	8	11	11	12	11	15	8	11
	2. 医 業 外 費 用	130	143	154	146	137	141	122	124
	(1) 支 払 利 息	66	61	56	52	47	42	38	33
	(2) そ の 他	64	82	98	94	90	99	84	91
	経 常 費 用 (B)	2,626	2,521	2,488	2,774	2,756	2,771	2,758	2,760
出	経 常 損 益 (A)-(B) (C)	65	72	69	▲ 98	29	18	25	19
	1. 特 別 利 益 (D)			56					
	2. 特 別 損 失 (E)	6	35	57					
	特 別 損 益 (D)-(E) (F)	▲ 6	▲ 35	▲ 1	0	0	0	0	0
	純 損 益 (C)+(F)	59	37	68	▲ 98	29	18	25	19
	累 積 欠 損 金 (G)	3,823	3,786	3,718	3,816	3,787	3,769	3,744	3,725
	流 動 資 産 (ア)	960	1,022	982	834	852	855	888	929
	流 動 負 債 (イ)	605	638	647	656	657	649	643	649
	う ち 一 時 借 入 金								
	翌 年 度 繰 越 財 源 (ウ)								
良	当 年 度 同 意 等 債 で 未 借 入 又 は 未 発 行 の 額 (エ)								
	不 良 債 務 差 引 [(イ)-(エ)] - [(ア)-(ウ)] (オ)	▲ 355	▲ 384	▲ 335	▲ 178	▲ 195	▲ 206	▲ 245	▲ 280
	経 常 収 支 比 率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$	102.5	102.9	102.8	96.5	101.1	100.6	100.9	100.7
	不 良 債 務 比 率 $\frac{(オ)}{a} \times 100$	▲ 16.0	▲ 18.0	▲ 16.6	▲ 8.0	▲ 8.3	▲ 8.7	▲ 10.3	▲ 11.8
	医 業 収 支 比 率 $\frac{a}{b} \times 100$	88.6	89.9	86.5	85.0	90.0	90.0	89.8	89.8
	職 員 給 与 費 対 医 業 収 益 比 率 $\frac{c}{a} \times 100$	63.1	67.9	70.3	73.9	70.0	69.7	69.7	69.7
	地方財政法施行令第15条第1項 により算定した資金の不足額 (H)	▲ 355	▲ 384	▲ 335	▲ 178	▲ 195	▲ 206	▲ 245	▲ 280
	資 金 不 足 比 率 $\frac{(H)}{a} \times 100$	▲ 16.0	▲ 18.0	▲ 16.6	▲ 8.0	▲ 8.3	▲ 8.7	▲ 10.3	▲ 11.8
	病 床 利 用 率 (一 般 病 床)	83.6	84.6	79.8	80.0	83.6	83.6	84.7	84.7

団体名 (病院名)	公立南砺中央病院
--------------	----------

2. 収支計画(資本的収支)

(単位:百万円、%)

年度		30年度(実績)	元年度(実績)	2年度(見込)	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
区 分									
収 入	1. 企 業 債	34	159	157	127	108	204	41	118
	2. 他 会 計 出 資 金	198	202	224	221	222	215	221	227
	3. 他 会 計 負 担 金								
	4. 他 会 計 借 入 金								
	5. 他 会 計 補 助 金								
	6. 国 (県) 補 助 金		3	31	3		3	3	3
	7. そ の 他								
	収 入 計 (a)	232	364	412	351	330	422	265	348
	うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額 (b)								
	前年度許可債で当年度借入分 (c)								
	純計(a)-[(b)+(c)] (A)	232	364	412	351	330	422	265	348
支 出	1. 建 設 改 良 費	47	175	258	168	108	207	44	121
	2. 企 業 債 償 還 金	320	310	311	345	345	346	356	355
	3. 他 会 計 長 期 借 入 金 返 還 金	67	90	76	66	68	68	50	45
	4. そ の 他								
	支 出 計 (B)	434	575	645	579	521	621	450	521
	差 引 不 足 額 (B)-(A) (C)	202	211	233	228	191	199	185	173
補 て ん 財 源	1. 損 益 勘 定 留 保 資 金	202	211	233	228	191	199	185	173
	2. 利 益 剰 余 金 処 分 額								
	3. 繰 越 工 事 資 金								
	4. そ の 他								
	計 (D)	202	211	233	228	191	199	185	173
	補てん財源不足額 (C)-(D) (E)	0	0	0	0	0	0	0	0
	当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 (F)								
	実 質 財 源 不 足 額 (E)-(F)	0	0	0	0	0	0	0	0

3. 一般会計等からの繰入金の見通し

(単位:百万円)

	30年度(実績)	元年度(実績)	2年度(見込)	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
収 益 的 収 支	(305) 466	(283) 445	(190) 444	(181) 432	(172) 420	(171) 416	(168) 410	(168) 407
資 本 的 収 支	199	202	224	221	222	215	221	227
合 計	(305) 665	(283) 647	(190) 668	(181) 653	(172) 642	(171) 631	(168) 631	(168) 634

(注)

- 1 ()内はうち基準外繰入金額
- 2 「基準外繰入金」とは、「地方公営企業繰出金について」(総務副大臣通知)に基づき他会計から公営企業会計へ繰り入れられる繰入金以外の繰入金をいう

4. 一般会計長期借入金の見通し

(単位:百万円)

	30年度(実績)	元年度(実績)	2年度(見込)	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
借 入 額								
年度末借入残高	636	546	470	404	336	268	218	173

別紙2

一般会計における経費負担の考え方

	概 要
1	病院の建設改良に要する経費を繰り入れる ① 施設整備、機器整備を行った財源の内、発行した企業債の元利償還金の2/3(平成14年度以前)又は1/2(平成15年度以降) ② 起債対象外の施設整備(大型改修等)に係る経費の1/2 ③ 建物耐震化工事に係る発行起債の元利償還額の全額
2	へき地医療の確保に要する経費を繰り入れる
3	在宅医療支援に要する経費を繰り入れる ① 回復期リハビリテーション病棟の運営に要する経費(収支不足相当額) ② デイケアセンターの運営に要する経費(収支不足相当額) ③ 砺波地域リハビリテーション支援センター南砺市民病院の運営に要する経費(収支不足相当額)
4	救急医療に要する経費を繰り入れる ① 救急告示病院としての経費 ② 病院群輪番制に係る経費
5	高度医療に要する経費を繰り入れる 取得価格が50,000千円以上のものに係る企業債の償還に要する元利金の1/2
6	院内保育所の運営に要する経費を繰り入れる 必要経費相当額
7	研究研修に要する経費を繰り入れる 医師及び看護師等の研究研修経費の1/2
8	共済追加費用の負担に要する経費を繰り入れる 必要経費相当額
9	医師確保対策に要する経費を繰り入れる ① 医師の派遣を受けることに要する経費 ② 医師会による時間外診療に要する経費 ③ 臨床研修医受入に係る経費 ④ 富山大学附属病院地域医療支援サテライトセンターの運営に要する経費
10	基礎年金拠出金に係る公的負担に要する経費を繰り入れる 必要経費相当額
11	児童手当に要する経費を繰り入れる 児童手当の給付に要する経費の一部
12	不採算地区病院として運営に要する経費を繰り入れる 150床未満で不採算地区病院の条件を満たすに伴う収支不足額
13	不採算地区に所在する中核的な病院の機能の維持に要する経費を繰り入れる 100床以上500床未満で不採算地区に所在する中核的な病院の条件を満たすに伴う収支不足額
14	経営支援に係る経費を繰り入れる 地域医療を担う公的病院として満たすべき医療水準を維持するために要する経費
15	療養病床等不採算部門の運営に要する経費を繰り入れる 療養病床運営に伴う収支不足相当額

※その他、上記以外に地方公営企業繰出金に係る総務省通知に基づき一般会計が負担すべき経費が発生した場合は、財政当局と協議する。

別紙3

二次医療又は地域医療構想区域内の病院等(有床医療機関)配置の現況

令和元年7月1日現在

公的病院		一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床	計
砺波市	市立砺波総合病院	※ 461		44	5	4	514
小矢部市	公立学校共済組合北陸中央病院	140	53				193
南砺市	市立南砺市民病院	175					175
	公立南砺中央病院	104	45				149
	独立行政法人国立病院機構北陸病院	100		174			274
合 計		980	98	218	5	4	1,305

※休床病床43床含む

民間病院等		一般病床	療養病床	精神病床	計
砺波市	砺波サンシャイン病院		100		100
	となみ三輪病院		50		50
	砺波誠友病院		99		99
	あおい病院		96		96
	砺波サナトリウム福井病院			53	53
	津田産婦人科医院	12			12
小矢部市	つざわ津田病院		76		76
	西野内科病院		63		63
	小矢部大家病院			136	136
	太田病院		29		29
	松岡病院			113	113
南砺市	ふくの若葉病院		100		100
	吉岡整形外科	19			19
合 計		31	613	302	946

※小矢部大家病院 H31.3.1介護医療院へ転換(31床)

※となみ三輪病院 R1.6.1介護医療院へ転換(50床)

用語解説（５０音順）

◆医業収支比率

医業収益を医業費用で除した率で、この率が高いほど収益性がよい。

◆SPD（院内物流管理システム）

医療現場の要望によりの確に医療消耗品等を書く部署に提供し、死蔵・過剰在庫の解消、請求・発注業務の軽減、保険請求漏れを防止し、病院経営をサポートするシステム。

◆患者紹介（逆紹介）件数

受診した患者のうち、他の医療機関からの紹介で受診した患者紹介件数、逆に紹介した件数。他の医療機関との連携の目安。

◆患者満足度

受けた医療に対してどのような点にどの程度満足できたかという患者の印象を表すもの。

◆経常収支比率

経常収益（収益的収入額）を経常費用（収益的支出額）で除した率で、この率が高いほど収益がよい。なお、100%以上が黒字で、100%未満は赤字となる。

◆在宅復帰率

施設基準の一つで、退院患者に占める、該当場所に退院した患者の割合。

・直近６月間に「自宅、居住系介護施設等」に退院した患者 ÷ 直近６月間に当該病棟又は病室から退院した患者－再入院患者－死亡退院した患者－病状の急性増悪等により、他の医療機関での治療が必要になり転院した患者

◆資金不足比率

不良債務から当年度同意等起債で未借入又は未発行のもののうち、支出済みとされたものや引当金等を控除した額を事業規模（医業収益）で除した率。

◆総合診療

専門化・細分化しすぎた現代医療のなかにあって、全人的に人間を捉え、特定の臓器・疾患に限定しない多角的な診療。

◆地域医療構想

平成２６年に成立した医療介護総合確保推進法により都道府県が策定する構想。団塊の世代が後期高齢者となる２０２５年に向けて、病床の機能分化・連携を進めるために、医療機能ごとに医療需要と病床の必要数を推計し、地域の実状に応じた方向性を定めるもの。

◆地域包括ケア

地域住民に保健、医療サービス及び在宅ケア、リハビリテーション等の介護を含む福祉サービスを関係者が連携・協力して一体的に提供する仕組み。

◆地域包括ケア病床

入院治療後、症状が安定した患者に対してリハビリや退院支援など効率的かつ密度の高い医療を

提供して、在宅・介護施設復帰支援を行うための病床。

◆DPC（包括医療費支払い制度）

入院患者の病名や症状をもとに手術などの診療行為の有無に応じて、厚生労働省が定めた1日当りの診断群分類点数をもとに医療費を計算する定額払いの会計方式。（従来は診療行為ごとに計算する「出来高払い」という。）

◆二次医療圏

一般的な医療を地域で完結することを目指して決められる医療の地域圏。南砺市においては、砺波市、小矢部市を含めた砺波医療圏を指す。なお、一次医療圏は身近な医療を提供する医療圏で、市町村を単位として、三次医療圏は原則都道府県を一つの単位として認定される。

◆ハイケアユニット（HCU）

高度治療室と呼ばれ、集中治療室（ICU）と一般病床の中間に位置する病床で、ICUよりもやや重篤度の低い患者を受け入れる病床。

◆病院機能評価

病院をはじめとする医療機関の機能を学術的観点から中立な立場で評価することで、第三者評価機関として、財団法人日本医療機能評価機構が評価基準に基づき評価・認定を行っている。

◆病床利用率

1年間の延べ入院患者数を年間病床数（1年間の日数×病床数）で除したものを率にした数。入院病床が有効利用されているかどうかの指標。100%に近いほど空き病床が少ない。

$$\cdot (\text{年度延入院患者数} \div \text{年度延病床数}) \times 100$$

◆不良債務比率

法適用企業での不良債務の営業収益に対する割合をいい、累積欠損金比率とともに経営悪化の状態を示す数値。不良債務すなわち資金不足の解消は、基本的には経営活動の結果である収益の確保によることとなる。この比率が高い場合は、より一層の厳しい経営努力が求められることになる。

$$\cdot \text{不良債務比率}(\%) = \text{不良債務} \div \text{営業収益} \times 100$$

◆平均在院日数

1年間の延べ入院患者数を年度間に入退院した患者数を除して求めた数。病院全体で一人一人の患者が何日間入院しているかの指標。

$$\cdot \text{年度延入院患者数} \div ((\text{年度中の新入院患者数} + \text{退院患者数}) \times 1/2)$$

◆累積欠損金比率

法適用企業で営業収益に対する累積欠損金の割合をいい、経営の悪化状況を示す数値です。累積欠損金そのものの数値が大きくてもこの比率が低ければ、早期に解消されることもあるが、逆に累積欠損金が少なくても、この比率が高い場合は、経営努力だけでは累積欠損の解消が困難となり、一般会計からの補助等が必要となることがある。

$$\cdot (\text{累積欠損金} \div \text{営業収益}) \times 100$$

将来の医療のあり方検討特別委員会

(南砺市立病院 将来ビジョンの策定について)

令和3年11月2日

目次

1－1．南砺市立病院 将来ビジョンの策定目的と基本方針	・・・ P. 1
1－2．南砺市立病院 将来ビジョンの位置づけ	・・・ P. 2
1－3．南砺市立病院将来ビジョンのイメージ（目指すべき方向性）	・・・ P. 3
2－1．砺波医療圏における病床数	・・・ P. 4
2－2．地域医療構想による富山県（砺波医療圏）の2025年(R7)必要病床数	・・・ P. 5
2－3．南砺市における将来人口及び入院患者数の推計	・・・ P. 6
2－4．南砺市立2病院の現状	・・・ P. 7

シップヘルスケアリサーチ&コンサルティング株式会社



1-1. 南砺市立病院 将来ビジョンの策定目的と基本方針

○南砺市立病院 将来ビジョンの策定目的

将来にわたり持続可能な、やさしく質の高い医療を提供

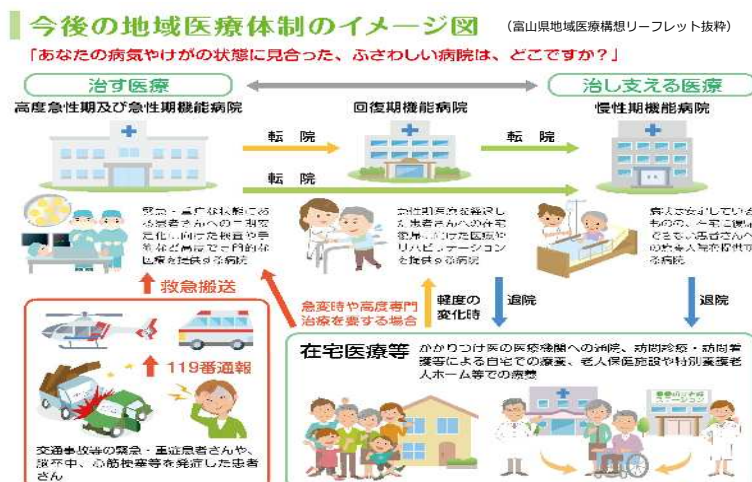
従来の予想を超える労働力人口の減少や医療需要の変化、大規模感染症への対応など、医療を取り巻く環境は過去に例を見ないほど大きく変化しています。本市においても、医師確保が今後さらに厳しくなることや、将来的な患者需要を踏まえた設備投資計画の策定など、将来を見通した市立病院のあり方について検証を行うべき時期を迎えています。

病院施設・機能の再編は、市民だけでなく、医療従事者にとっても大きな問題です。市では、この問題を先送りすることなく、将来世代が引き続き南砺市で安全・安心に暮らしていけるため、市立病院に係る将来ビジョンを策定します。

◆基本的方針◆

- ① 医療資源の最適化を図るため、市立２病院の機能統合を目指す
- ② 市立病院としての役割（病床機能）を明らかにし、将来的な医療需要を踏まえた適正な病床規模を検討する（※）
- ③ 収支計画を策定、経営持続可能性を検証する
- ④ 上記を総合的に判断し、今後の市立病院のあり方を評価

(※) 今般の大規模感染症への柔軟な対応を考慮しつつ、医療需要の変化・地域医療構想を踏まえ病床規模のダウンサイジングを進める



1-2. 南砺市立病院 将来ビジョンの位置づけ

- **医療構想**は、団塊の世代が後期高齢者となる2025年(R7)に向け、各都道府県毎の医療需要と供給体制を整理し、病床過剰地域の病院規模を縮減する国（県）の取組です。
- **南砺市立病院 将来ビジョン**は、今後50年間の医療需要・労働力人口の推移を踏まえ、市立2病院がどのような運営形態であるべきかを位置付ける中長期的な構想です。
- **新公立病院改革プラン**は、総務省の公立病院改革ガイドライン（※）を踏まえ、地域医療を支える公立病院の役割の明確化や持続可能な経営効率化を目的とした短期的な実施計画と位置付けています。計画期間は5年間、具体的な成果目標が設定し、実施状況の点検・評価・公表が求められます。

地域医療構想

- ・団塊の世代が75歳以上となる超高齢社会の到来
- ・将来にわたり持続可能な、効率的で質の高い医療提供体制の構築
- ・地域の医療関係者の協議を通じ病床の機能分化と連携を進め、効率的な医療提供体制を実現

南砺市立病院 将来ビジョン(50年間)

新公立病院改革プラン

現：R3～R8（前：H28～H32）

- ・公立病院改革ガイドラインを踏まえた短期実施計画
- ・成果目標を設定し履行、5年毎に策定
- ・実施状況の点検・評価・公表

- （※）新公立病院改革ガイドライン抜粋（H27.3総務省自治財政局長通知）
＜公立病院改革の目指すもの＞
- ・公民の適切な役割分担のもと、地域において必要な医療提供体制を確保
 - ・安定的に不採算医療などの役割を担っていく

患者だけでなく医療従事者にも選ばれ、将来にわたって持続可能な病院運営を維持していくためには、目先の計画だけではなく、中長期での見通しを立て、その実現に向けた短期実施計画を設定・履行していくことが必要です。

Copyright © 2021 SHIP HEALTHCARE Research&Consulting, All Rights Reserved.

1-3. 南砺市立病院 将来ビジョンのイメージ（目指すべき方向性）

◆ 南砺市立 病院将来ビジョンの目次(案)

0 将来ビジョン作成に当たって

- (1) 将来ビジョン作成経緯
- (2) 前回（平成28年）のあり方報告書の概要

1 砺波医療圏および南砺市における医療の現状と将来像

- (1) 砺波医療圏・南砺市の現状
 - ① 主な医療機関と医療機能
 - ② 患者の流出・流入状況
 - ③ 南砺市における地域特性
 - ④ 医療従事者の配置状況
 - ⑤ 救急搬送状況
- (2) 砺波医療圏・南砺市の将来像
 - ① 将来人口・労働力人口の推計
 - ② 将来患者（医療需要）の推計
 - ③ 地域医療構想の方向性

2 南砺市民病院・公立南砺中央病院の現状と課題

- (1) 両病院の施設概要
- (2) 両病院の患者受療動向
- (3) 両病院の経営状況

3 将来ビジョンの基本的な考え方

- (1) 地域医療体制が抱える課題
- (2) 統合再編により期待される効果
- (3) 市立病院として目指すべき方向性

4 将来ビジョンについて

- (1) 病床機能及び病床規模の設定
- (2) 療養型病床に係る取扱い
- (3) 地域医療構想と本ビジョンの関係
- (4) 新病院建設案における整備候補地の検討
- (5) 比較検討案の設定
- (6) 比較検討案の評価

5 将来ビジョンの方針及び今後について

(1) 地域医療体制が抱える課題

- ・南砺市内の人口、医療需要が急激に減少していくことが見込まれる中で、施設規模が過大となることによる経営の悪化
- ・市内で急性期の市立病院が2施設に分かれていることによる医療従事者及び医療機器の分散化
- ・大学からの医師派遣の分散化
- ・医療の高度化による急性期機能の集約化の必要性
- ・現2施設の老朽化及び大規模改修費の発生
- ・市立2病院を維持することによる南砺市としての財政負担
- ・地域医療構想に合わせた病床規模、機能の見直しの必要性

(2) 統合再編により期待される効果

- ・医療資源の効率的・効果的配置の実現による病院経営の改善、病院ブランド力の底上げ、職員モチベーションの向上
- ・大学との関係強化による医師確保
- ・特に運営に多くの人材が必要とする急性期機能に対する医療従事者の集約による運営の効率化、診療機能の充実化、新興感染症への体制強化
- ・人員体制の充実による医療需要や医療技術の変化、働き方改革等への柔軟な対応
- ・機能分化を図ることによる地域医療連携の促進、地域医療構想実現への寄与

(3) 統合再編により目指すべき方向性

- ① 急性期機能の統合・充実化
- ② 公立病院として果たすべき役割の実施（4疾病・5事業等の政策的医療、医療～介護～在宅における中心的な役割）
- ③ 地域医療構想を踏まえた機能分化、役割の実施（地域の適正な病床機能・規模への寄与）
- ④ 砺波医療圏内の病院との連携強化
- ⑤ 効率的・安定的な病院経営
- ⑥ 市民にとっても、職員にとっても魅力的な特色ある病院づくり
- ⑦ 地域医療に係る人材育成拠点として強化

Copyright © 2021 SHIP HEALTHCARE Research&Consulting, All Rights Reserved.

2-1. 砺波医療圏における病床数

◆ 砺波医療圏における病床機能別病床数の推移

2015年（H27）から2019年（R1）にかけて、砺波医療圏の病床数は1885床から1605床に減少しています。

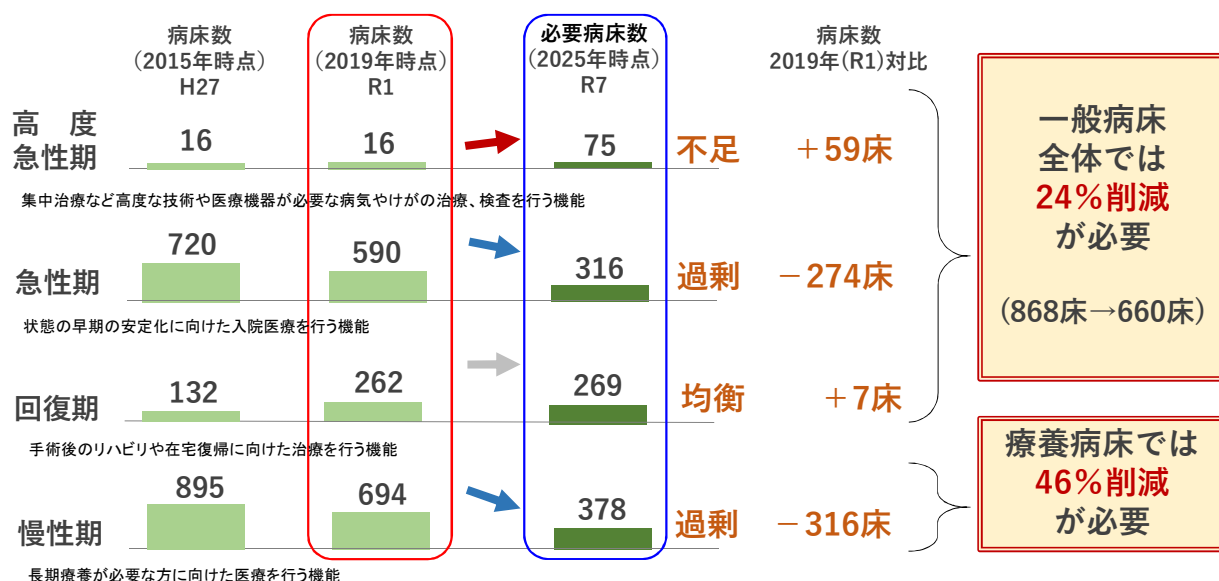
▼ 砺波医療圏 病床機能報告データ		(床)						(床)					
市町村	施設名称	2015 (H27)						2019 (R1)					
		全体	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休養等	全体	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休養等
南砺市	南砺市民病院	175	0	91	84	0	0	175	0	96	79	0	0
	公立南砺中央病院	190	0	104	0	45	41	149	0	52	52	45	0
	独立行政法人国立病院機構 北陸病院	100	0	0	0	100	0	100	0	0	0	100	0
	ふくの若葉病院	100	0	0	0	100	0	100	0	0	0	100	0
	吉岡整形外科	19	0	19	0	0	0	19	0	19	0	0	0
	井波中央クリニック	19	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0
	小計	603	0	214	84	245	60	543	0	167	131	245	0
砺波市	市立砺波総合病院	461	16	354	48	0	43	461	16	354	48	0	43
	砺波誠友病院	99	0	0	0	99	0	99	0	0	0	99	0
	砺波サンシャイン病院	100	0	0	0	100	0	50	0	0	0	50	0
	となみ三輪病院	100	0	0	0	100	0	50	0	0	0	50	0
	あおい病院	96	0	0	0	96	0	96	0	0	0	96	0
	津田産婦人科医院	12	0	12	0	0	0	12	0	12	0	0	0
	小計	868	16	366	48	395	43	768	16	366	48	295	43
小矢部市	公立学校共済組合北陸中央病院	193	0	140	0	53	0	193	0	57	83	53	0
	西野内科病院	63	0	0	0	63	0	36	0	0	0	36	0
	つざわ津田病院	76	0	0	0	76	0	36	0	0	0	36	0
	太田病院	29	0	0	0	29	0	29	0	0	0	29	0
	小矢部大家病院	34	0	0	0	34	0	0	0	0	0	0	0
	沼田医院	19	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0
	小計	414	0	140	0	255	19	294	0	57	83	154	0
合計		1,885	16	720	132	895	122	1,605	16	590	262	694	43

(出典：富山県 病床機能報告)

Copyright © 2021 SHIP HEALTHCARE Research&Consulting, All Rights Reserved.

2-2. 地域医療構想による富山県(砺波医療圏)の2025年(R7)必要病床数

◆ 富山県地域医療構想（砺波医療圏）の状況



【 今後の課題 】

- ① リハビリや在宅復帰に向けた医療を提供する入院用ベッド（病床）が必要
- ② 介護施設を含めた在宅医療等のより一層の充実が必要

Copyright © 2021 SHIP HEALTHCARE Research&Consulting, All Rights Reserved.

2-3. 南砺市における将来人口及び入院患者数の推計

1 南砺市の将来人口推計

- 南砺市の**高齢化率**は上昇し続け、**2060年(R42)**には**48.0%**に達することが見込まれます。
- 南砺市の**生産労働人口(15～64歳)**の減少は著しく、**2020年(R2)**から**2060年(R42)**にかけて約**60%**(約1.5万人)が減少が見込まれ、医療・介護・福祉の労働力の確保について懸念されます。

生産労働人口
2020(R2)→2060(R42)
約60%減

▼ 南砺市の将来人口推計

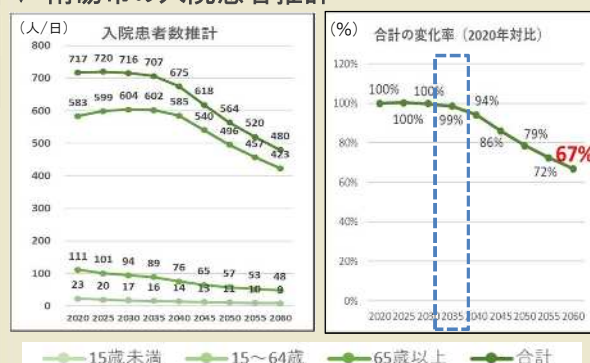


2 南砺市の入院患者推計

- 入院患者は2035年(R17)までは2020年(R2)と同等の入院患者数が推計されるものの、**2040年(R22)**以降急激な減少が見込まれる。
- 2060年(R42)の合計の推計患者数は2020年(R2)対比で**67%程度に減少**することが見込まれます。
- 医療需要の高い65歳以上の入院患者推計は2040年(R22)頃までは需要が維持されますが、**2040年(R22)以降は急激に減少**することが見込まれます。

(出典)
南砺市人口推計: 国立社会保障・人口問題研究所 日本地域別将来推計人口(2018年推計)
受療率: 厚生労働省 患者調査(2017年) 性・年齢階級 × 傷病分類別

▼ 南砺市の入院患者推計



Copyright © 2021 SHIP HEALTHCARE Research&Consulting, All Rights Reserved.

2-4. 南砺市立2病院の現状

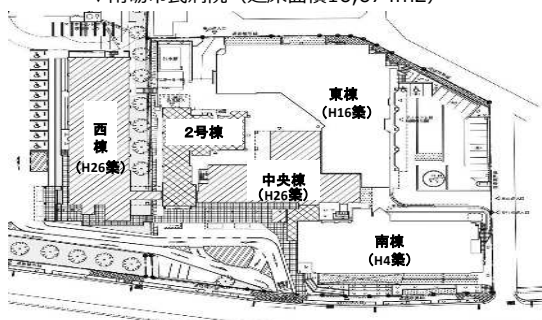
◆ 病床数

	急性期病床	回復期病床	慢性期病床	計
【南砺市民病院】	96	79	-	175
【公立南砺中央病院】	52	52	45	149
計	148	131	45	324

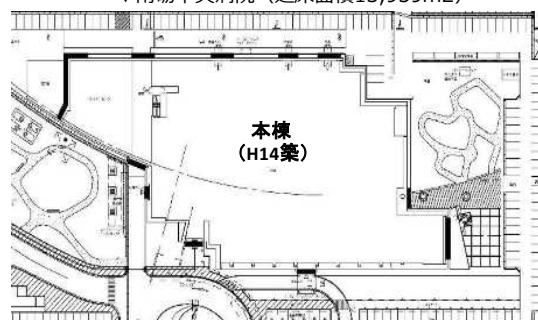
◆ 病院建物に係る耐用年数

	竣工年	R 2 現在築年数	耐用年数39年とした場合の建替年
【南砺市民病院】			
南棟	H 4 (1992)	28	R 13 (2031)
東棟	H 16 (2004)	16	R 25 (2043)
西棟	H26 (2014)	6	R 35 (2053)
中央棟			
2号館 (改築)			
【南砺中央病院】			
本棟	H14 (2002)	18	R 23 (2041)

▼ 南砺市民病院 (延床面積16,674m²)



▼ 南砺中央病院 (延床面積13,959m²)



Copyright © 2021 SHIP HEALTHCARE Research&Consulting, All Rights Reserved.

◇こどものえがおクリニック受診状況

報告資料 3

◇受診者居住場所状況・・・令和3年6月3日（開設日）～令和3年11月30日

月日	延べ人数	初診	再診	月合計	南砺市	砺波市	小矢部市	その他
6月3日	4	4	0	19	3	0	0	1
6月10日	4	4	0		4	0	0	0
6月17日	7	6	1		5	1	0	1
6月24日	4	4	0		2	1	1	0
7月1日	11	3	8	37	8	2	1	0
7月8日	7	3	4		6	1	0	0
7月15日	6	3	3		6	0	0	0
7月29日	13	4	9		11	2	0	0
8月5日	8	2	6	46	7	0	1	0
8月12日	12	5	7		10	2	0	0
8月19日	14	5	9		12	2	0	0
8月26日	12	4	8		10	2	0	0
9月2日	10	4	6	56	10	0	0	0
9月9日	15	3	12		12	3	0	0
9月16日	15	4	11		11	3	1	0
9月30日	16	4	12		13	2	1	0
10月7日	9	6	3	51	7	2	0	0
10月14日	16	3	13		12	4	0	0
10月21日	14	4	10		12	2	0	0
10月28日	12	3	9		9	1	0	2
11月4日	15	4	11	67	10	4	1	0
11月11日	18	3	15		12	5	0	1
11月18日	14	3	11		12	2	0	0
11月25日	20	3	17		16	1	3	0
総合計	276	91	185	276	220	42	9	5



◇受診者年齢別

年齢	人数
3歳	15
4歳	4
5歳	9
6歳	33
7歳	7
8歳	19
9歳	5
10歳	31
11歳	10
12歳	29
13歳	28
14歳	39
15歳	22
16歳	13
17歳	12
18歳	0
延人数	276

